

ふくしま復興のあゆみ

◇ 第26版 ◇



- A: 広野町 } Jヴィレッジ、グランドオープン(全景)
- 檜葉町 }
- B: 大熊町 避難指示一部解除、新庁舎開所式(人文字アート)
- D: 福島市 たわわに実った桃(あかつき)

C: 川内村 福塚 裕美子(ふくつか ゆみこ)さん
震災ボランティアとして村を訪れ、その後移住。
ご自身の夢である花屋をオープン。花を通じて
村の方々とのふれあいを大切にしている。

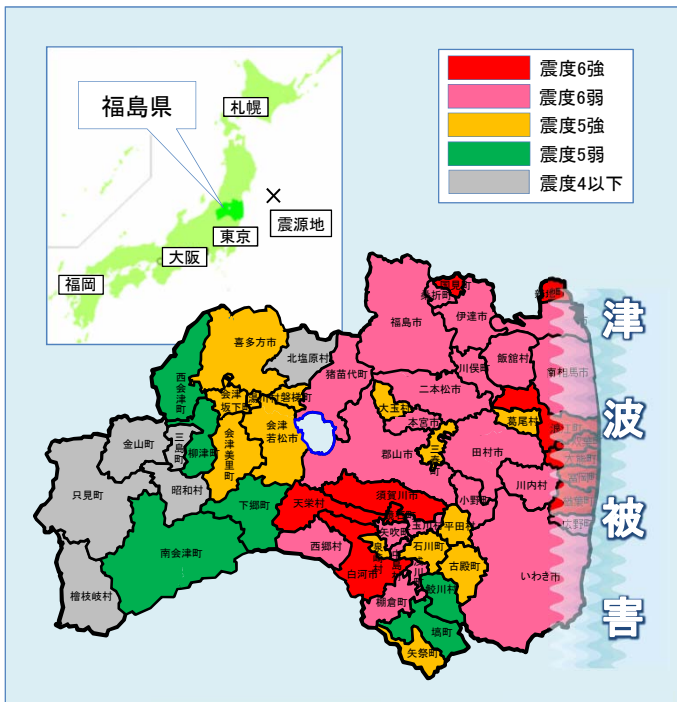


福島県の被害状況①（地震・津波被害等）

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大級の地震でした。
最大震度7を記録した激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。

地震・津波による被害状況

◆震源地と県内各地の震度



◆人的被害【令和元年7月5日現在】

【死者:4,105人（うち、震災関連死:2,275人*1）】【行方不明者:1人】

※1 震災関連死とは、地震などの直接的な被害によるものではなく、その後の避難生活での体調悪化や過労など間接的な原因で死亡すること。



津波に襲われる四倉湾



重機を使い捜索活動を行う警察職員（相馬市）

◆公共施設被害報告額【平成24年3月23日現在】

公共土木施設被害報告額	約3,162億円
農林水産施設被害報告額	約2,453億円
文教施設被害報告額	約 379億円
公共施設被害報告総額	約5,994億円

※県所管分:福島第一原子力発電所から30km圏内は航空写真等により推定した概算被害額を計上。市町村所管分:南相馬市の一部及び双葉8町村の概算被害額は含まれていない。

【出典】福島県東日本大震災復旧・復興本部県土整備班



海岸

いわき市の海岸



農林水産施設

八沢排水機場（相馬市）



道路

県道白河羽鳥線



文教施設

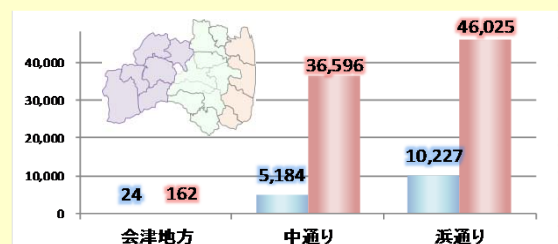
県立岩瀬農業高校（鏡石町）

家屋被害の状況

◆被害棟数合計【令和元年7月5日現在】

全壊	15,435棟
半壊	82,783棟

◆県内3地方内訳



甚大な津波被害

家屋被害の状況（浪江町請戸地区）

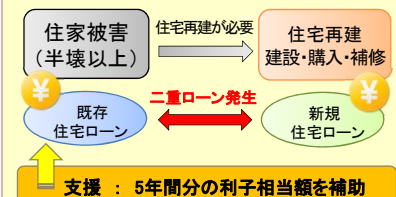


内陸部も大きな被害

家屋被害の状況（福島市伏拝地内）

【参考】県の住宅二重ローン対策

◆被災された方々の住まいの再建・確保を支援



※令和元年度も実施します。

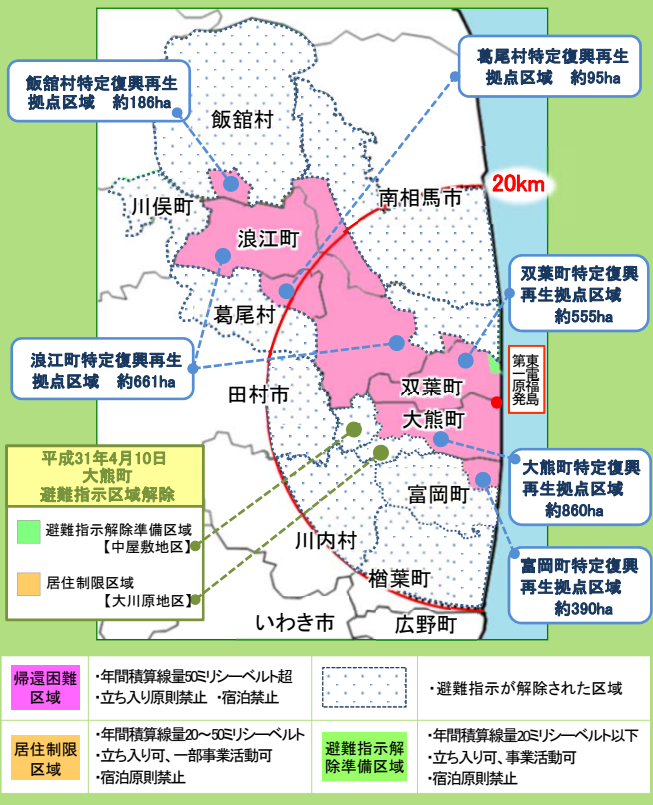
福島県の被害状況②（避難状況等）

避難者数は、平成24年5月の16万4,865人をピークに減少を続けており、令和元年7月時点では約4万2千人の方が避難を続けています。

帰還困難区域を除く避難指示区域の大部分が解除され、帰還困難区域においても、特定復興再生拠点区域復興再生計画が認定され、除染・工事が始まるなど、避難地域の復興再生が着実に進んでいます。

原子力災害に伴う避難指示区域等の状況

◆避難指示区域MAP



◆避難指示区域解除の状況

解除日	市町村	解除の状況
平成26年	4月1日 田村市 都路地区	避難指示解除準備区域解除
	10月1日 川内村	避難指示解除準備区域解除・居住制限区域を避難指示解除準備区域に再編
平成27年	9月5日 檜葉町	避難指示解除準備区域解除
平成28年	6月12日 葛尾村	居住制限区域及び避難指示解除準備区域解除
	6月14日 川内村	避難指示解除準備区域解除
	7月12日 南相馬市	避難指示解除準備区域解除
平成29年	3月31日 川俣町 浪江町 飯館村	居住制限区域及び避難指示解除準備区域解除
	4月1日 富岡町	避難指示解除準備区域解除
	平成31年 4月10日 大熊町	居住制限区域及び避難指示解除準備区域解除

◆特定復興再生拠点区域復興再生計画の認定

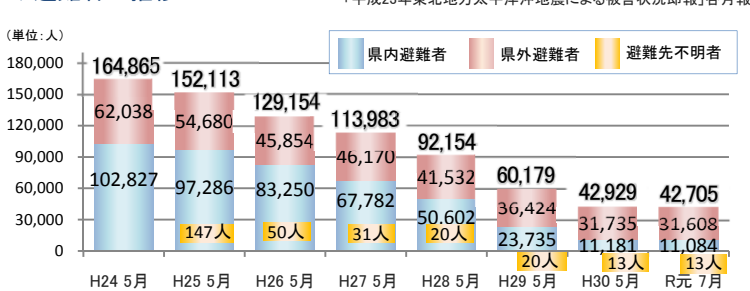
福島復興再生特別措置法の改正(平成29.5)により、帰還困難区域内に、避難指示を解除し、居住を可能とすることを旨とする「特定復興再生拠点区域」を定めることができるようになりました。双葉町が平成29年9月、大熊町が同年11月、浪江町が同年12月、富岡町が平成30年3月、飯館村が同年4月、葛尾村の計画が同年5月に国の認定を受け、計画が認定された6町村で除染や建物解体などが進められています。

◆避難指示区域の一部解除(大熊町)

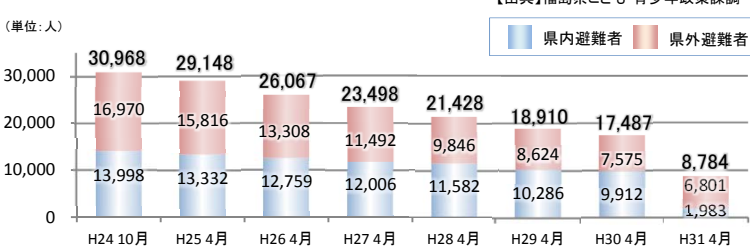
大熊町の居住制限区域(大川原地区)と避難指示解除準備区域(中屋敷地区)が平成31年4月10日に解除されました。役場も新たに建築され、庁舎近くには災害公営住宅が完成しました。今後は商業施設や福祉施設などが整備される予定です。

避難の状況

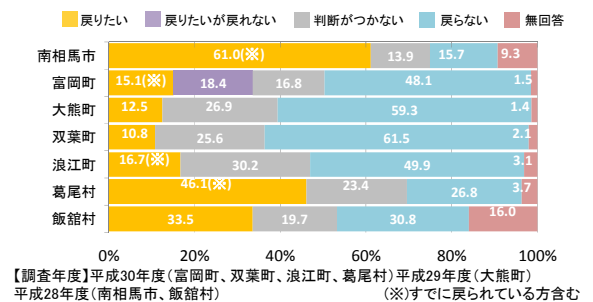
◆避難者の推移



◆避難者のうち18歳未満のこどもの内訳(避難先別)



◆復興庁・県・市町村による住民意向調査の結果(帰還意向)



【参考】福島県の人口の推移

	世帯数 (単位:世帯)	人口 (単位:人)	性別	
			男性	女性
平成23年3月	721,535	2,024,401	982,427	1,041,974
令和元年6月	751,686	1,848,257	915,366	932,891
増減	30,151	▲176,144	▲67,061	▲109,083

【出典】福島県の推計人口(福島県現住人口調査月報)

医療・介護、住宅や買い物環境の整備など、ふるさとに安心して帰還していただくための環境づくりに取り組んでいきます。

生活環境の整備

復興公営住宅等の整備

避難者や被災者の居住の安定を図るため、「復興公営住宅」の整備を進めています。原子力災害に伴う避難者向けの復興公営住宅については、県が主体となり、全体で4,890戸を整備する予定です。

復興公営住宅一例



区分	整備予定	対象者	完成戸数
地震・津波被災者向け	11市町村 2,807戸 (H29年度完成)	・地震・津波により住宅に被害を受けた住民	2,807戸 (100%)
原発避難者向け	県主体4,890戸	・避難指示区域の住民 (一部の団地については解除区域を含む)	4,767戸 (97%)
帰還者向け①	6町村 423戸	・避難指示区域の住民 (解除区域を含む)	343戸 (81%)
帰還者・新規転入者向け②	5市町村 157戸	・避難指示区域の住民 (解除区域を含む) ・自主避難者 ・新規転入者	107戸 (68%)
子育て世帯向け③	1市 20戸	・18歳未満の子育て世帯 (自主避難者含む)	20戸 (100%)

応急仮設住宅の供与

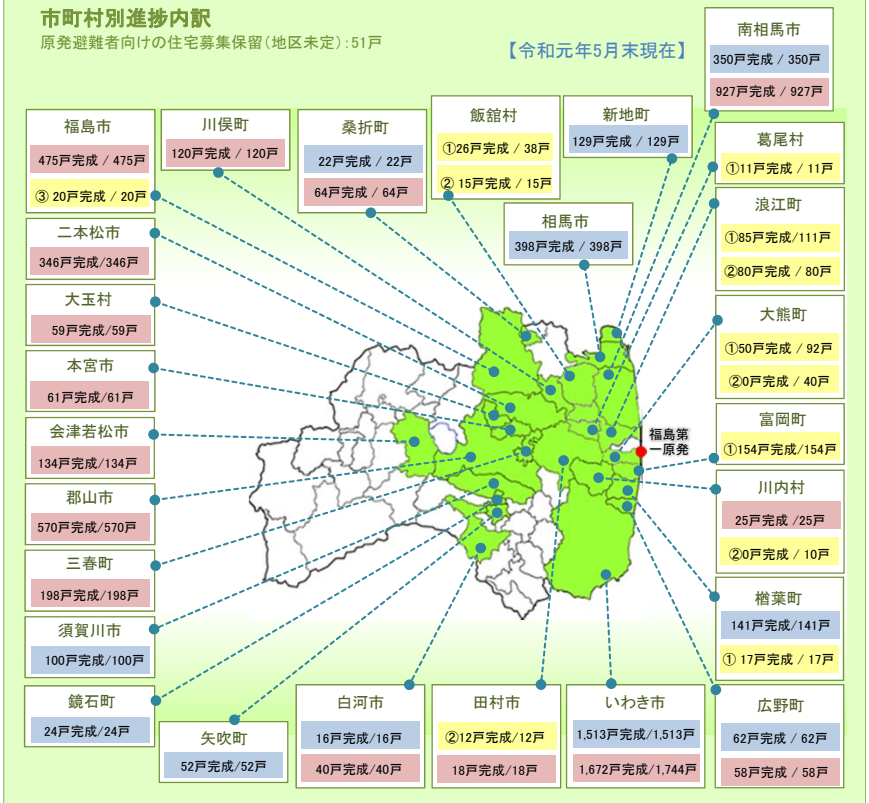
避難指示区域等からの避難者への供与期間を令和2年3月31日まで延長しています。

- ◆全域：富岡町、大熊町、双葉町及び浪江町
- ◆一部区域：葛尾村(野行地区など)及び飯館村(長泥地区)

市町村別進捗内訳

原発避難者向けの住宅募集保留(地区未定):51戸

【令和元年5月末現在】



避難者の見守り活動等

全国の生活再建支援拠点



県外に避難されている方が避難先での生活再建や帰還に向けた相談・情報収集ができるよう、全国26ヶ所に「生活再建支援拠点」を設置し、対面や電話による相談対応に加え、交流会の開催などを行っています。

心のケアセンター

心のケアの活動拠点として、県内6ヶ所(福島市・郡山市・会津若松市・南相馬市・いわき市・富岡町)に「心のケアセンター」を設置しています。震災や原子力災害により高いストレスを受けている県民の心のケアを行うため、精神保健福祉士や臨床心理士などの専門職が、市町村や関係団体と連携し、個別訪問等の相談活動を実施しています。

また、一般社団法人日本精神科看護協会等に委託し、福島県外へ避難されている方への心のケアのための訪問を実施しています。

精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

被災者相談ダイヤル
ふくこライン
TEL024-925-8322
(平日9:00~12:00/13:00~17:00)

復興支援員

関東各都県・山形県・新潟県に復興支援員を配置し、県外駐在員と共に避難者への戸別訪問や相談対応等を行っています。

生活支援相談員



県内22の市町村社会福祉協議会等に生活支援相談員等177人【R元.6.1現在】を配置しています。避難者の見守りや孤立の防止に加え、生活再建や放射線等を含めた健康に対する不安軽減のためリスコミュニケーションにも対応しています。

コミュニティ交流員

復興公営住宅を中心とする生活拠点におけるコミュニティの維持・形成を図るため、コミュニティ交流員を配置し、交流活動の企画・運営、団地の自治組織の立上げや地域との対話の場づくりをすすめるなど、入居者同士や地域住民との交流活動の支援を行っています。

高齢者等サポート拠点

仮設住宅に入居されている方には高齢者も多いことから、孤立を防ぎ、生活を支援するため、「高齢者等サポート拠点」を設置し、生活相談や交流の場の提供、健康教室などを実施しています。



帰還環境の整備

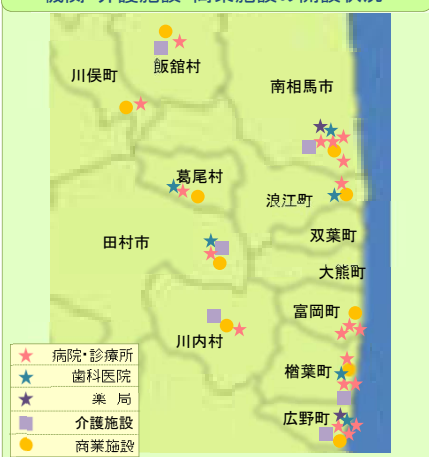
医療・介護提供体制の整備

ふるさとに帰還する住民の皆さんや避難されている方々に対する医療提供体制と介護サービスの確保に取り組んでいます。

避難指示等が解除されたすべての市町村(大熊町除く)で、ふたば医療センター附属病院をはじめとする医療機関が再開・開設し、帰還した住民の健康を支えています。

介護施設については、休止中の施設が円滑に事業再開できるよう、必要な支援に取り組んでいきます。

避難指示等が解除された市町村の医療機関・介護施設・商業施設の開設状況



医療機関の再開・開設

市町村名	病院、歯科、調剤薬局	市町村名	病院、歯科、調剤薬局
南相馬市(小高区)	市立小高病院、もんま整形外科医院、半谷医院、上町内科皮膚科クリニック、今村歯科・矯正歯科医院、小高調剤薬局	富岡町	ふたば医療センター附属病院、町立とみおか診療所、富岡中央医院
田村市	市立都路診療所、市立都路歯科診療所	川内村	川内村国民健康保険診療所
川俣町	川俣町国民健康保険山木屋診療所	浪江町	浪江町国民健康保険浪江診療所、豊嶋歯科医院
広野町	高野病院、訪問看護ステーションたかの、馬場医院、新妻歯科医院、広野薬局	葛尾村	葛尾村診療所、葛尾歯科診療所
檜葉町	ときクリニック、ふたば復興診療所(ふたばリカーレ)、鈴木緊診療所、浦生歯科医院	飯館村	いいたてクリニック

ふたば医療センター附属病院平成30年4月開院

双葉地域唯一の二次救急医療機関として、夜間・休日を含め24時間365日体制で患者を受け入れるとともに、訪問看護などの在宅支援等、地域に必要な医療を確保し、住民や復興関連事業に従事する方々が安心して暮らし、働ける環境を医療の面から支えています。

また、平成30年10月には多目的医療用ヘリの運航を開始しました。浜通りの医療機関と県立医大などの高度専門的な治療が行える医療機関間の患者搬送をすることができます。



同センター附属ふたば復興診療所平成28年2月開院



風邪や腹痛など身近な病気から、高血圧や糖尿病など内科の専門的な診療が必要な病気まで受診可能な体制を整えるとともに、高齢者等を対象とする整形外科を設置しています。

二次救急医療を担うふたば医療センター附属病院と、外来医療を担う附属ふたば復興診療所で、それぞれ機能分担し、県立医科大学と連携しながら、双葉地域の復興を支えています。

買い物環境の整備

避難指示等が解除された地域では、地元へ帰還して営業を再開した商店や、市町村が設置して民間に運営を委託する商業施設の整備が進んでいます。



ふくしま記憶と未来体験アプリ提供

浜通り地方の震災と復興に関する動画をスマートフォン等からご覧いただけます。県ホームページのダウンロードページをご覧ください。



生活・就職応援センター



東日本大震災により被災された方の就業支援及び生活再建を行う「ふくしま生活・就職応援センター」を県内7か所(郡山市、白河市、会津若松市、いわき市、南相馬市、広野町、富岡町)に設置しています。

◆ 学校の再開状況については、P18に掲載しています ◆

被災者の安全を守る警察活動

震災以降、全国から多くの警察官(ウルトラ警察隊)の応援を受け、被災地のパトロールや仮設住宅・復興公営住宅等への巡回連絡、国・自治体・民間ボランティア等と連携した防犯・交通事故防止対策等の治安対策を推進しています。

また、大熊町の一部地域における避難指示解除を受け、復興拠点の整備状況を踏まえた安全・安心の確保のために、大熊臨時駐在所を開所するなど被災地の警戒警ら強化しています。

引き続き、加速化する復興や被災地を取り巻く情勢の変化に着実に対応できるよう、関係自治体と緊密に連携しながら、住民の安全・安心の確保を図り、復興を治安面から力強く支えていきます。

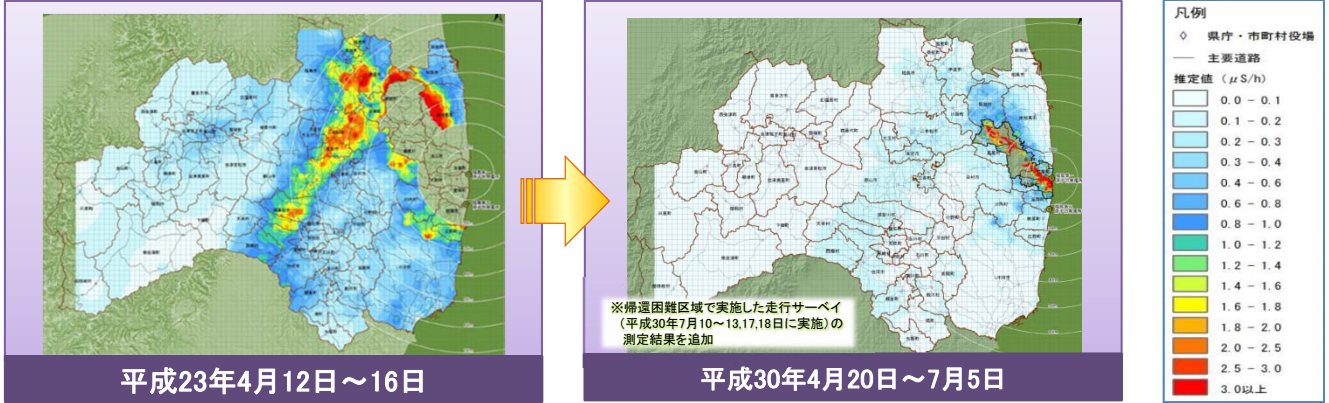


令和元年5月29日

県内の空間放射線量は、平成23年4月時点に比べ、大幅に減少しています。県内の面的除染は、帰還困難区域を除き、全て終了しました。

福島県内の空間放射線量の推移

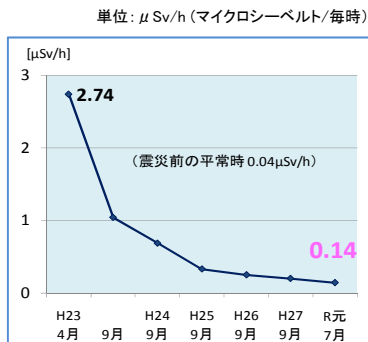
◆福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査結果等に基づく福島県全域の空間線量率マップ



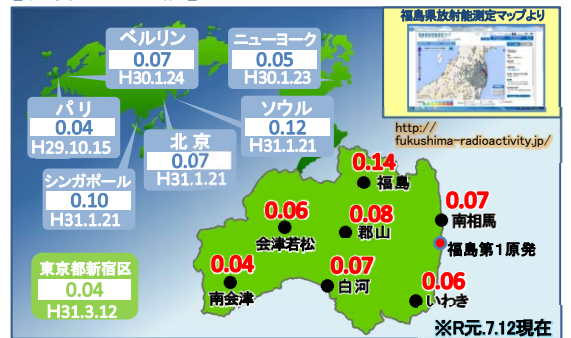
※国土地理院「基盤地図情報数値標高モデル(10mメッシュ)」、国土交通省国土政策局「国土数値情報(行政区界、道路)」を使用し作成。

◆放射線量の推移

	福島市	会津若松市	いわき市
震災前の平常時	0.04	0.04 ～0.05	0.05 ～0.06
平成23年4月	2.74	0.24	0.66
9月	1.04	0.13	0.18
平成24年3月	0.63	0.10	0.17
9月	0.69	0.10	0.10
平成25年3月	0.46	0.07	0.09
9月	0.33	0.07	0.09
令和元年7月	0.14	0.06	0.06



【世界との比較】【出典】海外の放射線量については日本政府観光局



除染について

◆除染の必要性

放射線量は、時間の経過や風雨などの自然要因により減少しますが、低減には長い年月を要します。このため、住民の健康や生活環境に及ぼす影響の低減に向け、少しでも早く放射線量を減らすため除染を実施しました。

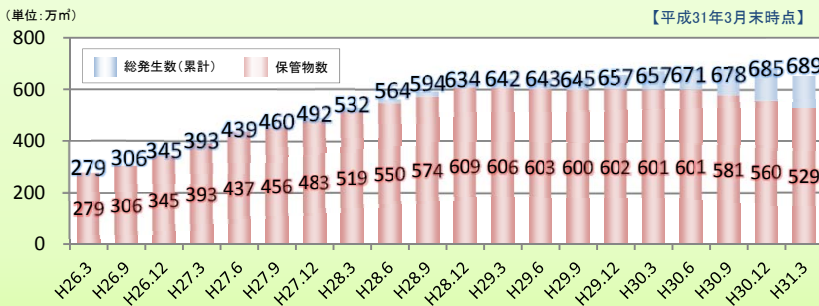
◆除染の効果

市町村が除染を実施する汚染状況重点調査地域において、除染前後の空間線量率の平均値を比較すると、宅地は42%、学校・公園は55%、森林は21%低減しており、面的除染による低減効果が確認されました。

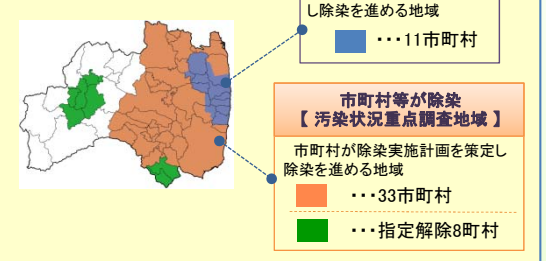


◆除染により生じた除去土壌等の保管状況

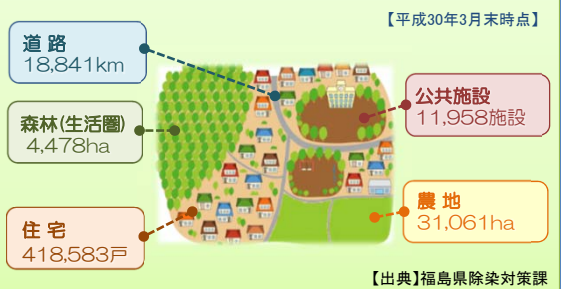
仮置場や現場保管されている除去土壌等は、順次、中間貯蔵施設に向け搬出され、保管物数は徐々に減少しています。



◆国と市町村の除染区域



◆汚染状況重点調査地域の除染実績



中間貯蔵施設

◆除去土壌等の搬入状況等

中間貯蔵施設への除去土壌等の搬入については、輸送が開始された平成27年3月から令和元年6月末までに、累計で約333万㎡が輸送され、対象52市町村のうち23市町村の輸送が完了しました。

県内に仮置きされている除去土壌等は、令和3年度(2021年度)までに、中間貯蔵施設への概ね搬入完了を目指す方針が示され、令和元年度は400万㎡程度を輸送する計画となっています。

これに向け、令和元年6月末現在、約1,118ha(全体の約70%)の用地が取得されるとともに、土壌貯蔵施設等の整備が進められています。

県では、安全・安心を確保するため、国、県、大熊町、双葉町と結んだ安全協定に基づき、現地確認や環境モニタリングを行い、結果をホームページで公開していきます。

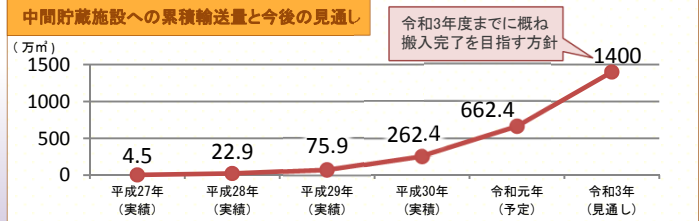


除去土壌等の搬出



土壌貯蔵施設

中間貯蔵 状況確認



廃棄物の処理

◆災害廃棄物の処理状況

【令和元年5月末現在】

- 市町村が処理を行う地域 処理量 304万トン(全て終了)
- 国が処理を行う地域 処理量 192万トン(継続中)

【国が行っている災害廃棄物処理の様子】



分別・破砕等



仮設焼却施設

◆特定廃棄物の埋立処分

県内の特定廃棄物(指定廃棄物(10万Bq/kg以下)や汚染廃棄物対策地域のがれき等)については、国の特定廃棄物埋立処分施設(富岡町)で埋立処分が行われています。

令和元年6月末時点で80,413袋が埋立処分されています。県では、安全・安心を確保するため、国、県、富岡町、楢葉町と結んだ安全協定に基づき、現地確認や環境モニタリングを行い、結果をホームページで公開しています。

特定廃棄物 状況確認



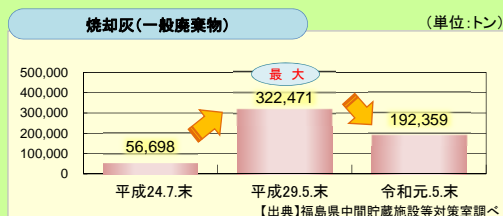
特定廃棄物の搬出



特定廃棄物埋立処分施設

◆主な汚染廃棄物の保管量推移

種類別保管量		(単位:トン)
廃棄物種類	最大保管量	令和元年5月
牧草	約18,900(平成25.10)	7,887
堆肥	約92,800(平成25.10)	25,459
下水汚泥	約75,700(平成25.9)	3,950



【焼却灰の保管状況】



福島県環境創造センター

環境放射線センター
【南相馬市】 平成27年11月16日開所

原子力発電所周辺のモニタリング
常時監視

野生生物共生センター
【大玉村】 平成28年4月25日開所

野生生物の調査研究、
環境学習・普及啓発等

猪苗代水環境センター
【猪苗代町】 平成28年4月15日開所

猪苗代湖・裏磐梯湖沼群の調査研究
環境学習・普及啓発等

福島県環境創造センター

福島県環境を早急に回復し、県民の皆さんが将来にわたって安心して暮らせる環境を創造するため、きめ細かな環境モニタリングや調査研究、情報発信を行っています。「コミュニティ福島」(三春町)では子どもたちの環境や放射線についての学習を支援する取組を進めています。

環境創造センター(三春町) 平成28年7月21日全施設開所

モニタリング、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流

研究棟 本館 交流棟「コミュニティ福島」

全球型シアター(環境創造シアター)

交流棟内部・展示スペース

◆IAEAとの連携【IAEA(国際原子力機関)との間で協力プロジェクトを進めています】

IAEA提案プロジェクト

- ・福島における除染
- ・分かりやすいマップ作成のための放射線モニタリング・データ活用上の支援など

福島県提案プロジェクト

- ・河川・湖沼における放射性物質対策
- ・野生生物における放射性核種の動態調査など



公共インフラ等の復旧と整備

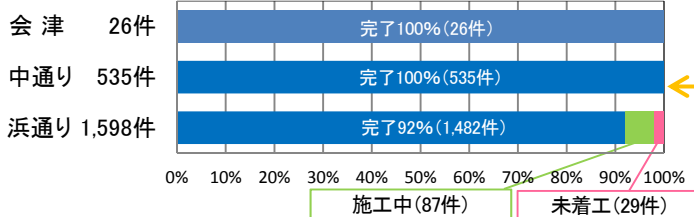
被災した公共土木施設の98%で復旧工事に着手しており、全体の94%が完了しています。
今後も津波被災地を中心に、復旧工事の早期完了と道路インフラ等の充実強化を図り、安全安心の確保に努めていきます。
※巻末に「参考」として進捗情報の詳細を掲載しています。

災害復旧工事の進捗及び復興に向けた道路等の交通網整備

◆工事箇所別進捗状況と地域別進捗状況

【平成31年2月28日現在】

公共土木施設 災害復旧工事箇所	査定決定数 (箇所数)	着工件数		完了件数		完了見通し ※帰還困難 区域を除く
		着工率 (%)	完了率 (%)			
計	2,159	2,130	98%	2,043	94%	
河川・砂防	289	280	96%	258	89%	平成32年度
海岸	161	157	97%	134	83%	平成32年度
道路・橋梁	811	802	98%	792	97%	平成32年度
港湾	331	331	100%	331	100%	完了
漁港	470	463	98%	431	91%	平成32年度
下水	3	3	100%	3	100%	完了
公園・都市施設	5	5	100%	5	100%	完了
公営住宅	89	89	100%	89	100%	完了



【参考】避難指示区域等の進捗状況

避難指示解除準備区域及び居住制限区域は、既に災害査定が終了しています。帰還困難区域では、国が行う除染などと調整を図りながら進めていく予定です。

査定決定数 (箇所数)	着工 件数	着工率	完了 件数	完了率
373	344	92%	267	71%

※避難指示を解除した田村市、南相馬市、葛尾村、川内村、楡葉町、浪江町、川俣町、飯館村、富岡町の区域を含む。

常磐自動車道

◆いわき中央IC～広野IC間
令和2年度末までの4車線化を
目指す

国では、いわき中央IC～広野IC間の4車線化に着手し、令和2年度末までの概ね5年での完成を目指すこととしています。

◆広野IC～山元IC間 6カ所(計13.5km)に付加車線を整備

NEXCO東日本は、渋滞緩和などのため広野IC～山元IC間に6カ所の付加車線を設置する方針を示しました。



◆ならはスマートIC
平成31年3月21日開通
◆大槻IC
平成31年3月31日開通
◆(仮)双葉IC
令和元年度供用予定

避難解除等区域の復興を周辺地域から強力に支援するため、平成30年代前半までの完成を目指して、浜通り(高速道路、直轄国道等に囲まれるエリア)へ続く主要8路線の整備などを進めています。



JR常磐線

南相馬市提供

◆運行状況
平成31年3月現在

- 浪江～小高駅間 [運転再開] (H29.4.1)
- 竜田～富岡駅間 [運転再開] (H29.10.21)
- 富岡～浪江駅間 [運転再開見込] (R元年度末まで)

不通過区間のバスによる代行輸送
・富岡～浪江駅間1日11本
(1便のみ原ノ町駅まで)

避難地域における広域路線バス

◆平成29年4月から運行開始

- いわき～富岡線
- 船引～葛尾線
- 船引～川内線

◆平成29年10月から運行開始

- 川内～小野新町～上三坂線
- 南相馬～医大経由福島線

◆平成30年4月から運行開始

- 川内～富岡線

市町村や交通事業者等と連携しながら広域交通の確保に取り組みます。

農林水産業施設等の復旧状況

※農地の被害状況面積は、被災面積5,462haから転用済みの面積を除いたもの。

	農地(営農再開 可能面積の割合)	農業経営体 (経営再開状況)	漁業経営体 (操業再開状況)	農地・農業用 施設等の復旧工事
①復旧対象	4,548ha	17,200経営体	740経営体	2,178地区
	津波被災農地の 復旧予定面積	東日本大震災による 被害のあった経営体	東日本大震災による 被害のあった経営体	復旧対象地区数
②復旧・ 復興の状況	3,039ha	10,500経営体	564経営体	1,944地区 1,818地区
	営農再開が 可能な農地面積	営農を再開した経営体 ※一部再開含む	操業を再開した経営体 ※試験操業含む	工事着手 工事完了
進捗率 (②/①×100)	66.8%	61.0%	76.2%	着手率 89.2% 完了率 83.4%
集計年月	平成31.3	平成26.3	平成30.12	平成31.3

ヒラメ・ホシガレイの放流再開

平成30年度に供用開始した水産資源研究所において、震災後初めて生産されたヒラメ、ホシガレイを令和元年6月に放流しました。ヒラメは、公益財団法人福島県栽培漁業協会が震災前と同規模となる稚魚100万尾を生産、放流し、ヒラメ栽培漁業の再開に向けて大きな一歩となりました。



また、ホシガレイはヒラメ以上に高値で取引されるため、新たな栽培漁業対象種として技術開発に取り組んでおり、過去最大規模となる11万尾を生産、放流しました。

県民の心身の健康を見守り、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図ることを目的とした「県民健康調査」に取り組み、県民の被ばく線量の推計や甲状腺検査などを実施しています。

県民健康調査

基本調査(被ばく線量の推計)

原発事故発生直後から平成23年7月11日までの4か月間の外部被ばく線量を推計 【対象:平成23年3月11日時点での県内居住者2,055,248人】

自記式の質問票にて推計:回答者568,331人(回答率約27.7%) >>> <外部被ばく線量推計結果> 県内全域:0~2ミリシーベルト未満 93.8%



甲状腺検査

【対象:震災時に概ね18歳以下等の約38万人】

【出典】環境省報道発表資料

検査時期	先行検査	平成23~25年度	震災時18歳以下の子どもを対象とした現状確認のための検査で、約30万人が受診。					
	本格検査	平成26年度~	先行検査と比較するための検査。平成24年4月1日までに生まれた方まで対象者を拡大して実施する。対象者が20歳を超えるまでは2年ごと、それ以降は25歳、30歳等の5年ごとの節目に検査を継続。					

【参考】福島県外3県における甲状腺有所見率調査結果

◆対象地域
青森県弘前市、山梨県甲府市、長崎県長崎市の3ヶ所

【調査対象者】	【調査結果】
3~18歳の者 4,365人	A1 : 1,853人(42.5%) A2 : 2,468人(56.5%) B : 44人(1.0%) C : 0人(0.0%)



甲状腺検査の様子

【平成31年3月末現在】

検査結果	判定区分	判定内容	先行検査		本格検査(検査2回目)		本格検査(検査3回目)		本格検査(検査4回目)	
			人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
A判定	A1	結節や嚢(のう)胞なし	154,605	99.2	108,718	99.2	76,327	99.3	31,022	99.3
	A2	5.0mm以下結節や20.0mm以下の嚢(のう)胞	143,573		159,584		139,870		58,194	
B判定		5.1mm以上結節や20.1mm以上の嚢(のう)胞	2,293	0.8	2,227	0.8	1,490	0.7	591	0.7
C判定		直ちに二次検査を要するもの	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

結果詳細	先行検査	本格検査(検査2回目)	本格検査(検査3回目)	本格検査(検査4回目)
	<ul style="list-style-type: none"> B、C判定は二次検査を実施。(先行・本格検査共通) A2判定の判定内容であっても、甲状腺の状態等から二次検査を要すると判断した方については、B判定としている。(先行・本格検査共通) 二次検査で、悪性ないし悪性疑い116人。(手術実施102人:良性結節1人、甲状腺がん101人) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26、27年度の2年間で実施。 二次検査(1,826人結果確定)で、悪性ないし悪性疑い71人。(手術実施52人・甲状腺がん52人) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28、29年度の2年間で実施。 二次検査(1,019人結果確定)で悪性ないし悪性疑い24人。(手術実施18人・甲状腺がん18人) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30、31年度の2年間で実施中。

内部被ばく検査(ホールボディカウンターによる)

検査結果(県)	1ミリシーベルト未満	1ミリシーベルト	2ミリシーベルト	3ミリシーベルト
	338,778人	14人	10人	2人

※平成24年3月以降の検査結果はすべて1mSv未満です。
※全員、健康に影響が及ぶ数値ではありませんでした。

県実施分の累計検査人数 338,804人
【平成23年6月~平成31年3月】



内部被ばく検査の様子

18歳以下の県民の医療費無料化

子どもの健康を守り、県内で安心して子どもを産み、育てやすい環境づくりを進めるため、平成24年10月から18歳以下の県民の医療費無料化を実施しています。



放射線医学に係る最先端の研究・診療拠点整備、医療人材の育成

ふくしま国際医療科学センター

将来にわたり健康を守り、放射線医学に係る先進的な研究診療拠点として、福島県立医科大学に設立されました。

事業内容

- 放射線医学県民健康管理センター
県民健康調査の実施
- 先端臨床研究センター
PET/MRI等の先進的な医療機器による画像診断及び研究等
- 医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター(TRセンター)
治療薬・診断薬等の開発支援と産学官共同研究
- 健康増進センター
県や市町村が行う健康増進事業を科学的に支援
- 甲状腺・内分泌センター
甲状腺・内分泌系疾患の治療の総合窓口
- 先端診療部門
先端医療技術・機器を活用した各疾病早期診断及び早期治療
- 教育・人材育成部門
各センターや災害医療、地域医療等を支える人材育成
- ふたば医療支援
双葉地域の復興を医療面から支援



福島県立医科大学

平成28年12月 開所

福島県立医科大学(仮称)保健科学部

県内で不足している保健医療従事者を養成し、安定的に確保するため、福島県立医科大学に新学部を設置します。

概要

- 学部名称:(仮称)保健科学部
学科名称:理学療法学科、作業療法学科、診療放射線科学科、臨床検査学科(いずれも仮称)
- 施設概要
所在地... 福島市栄町
施設規模... 延べ床面積:約18,300㎡
階層... 地下1階、地上8階(一部9階建)
耐震方式... 制震構造
- 定員(予定)
理学療法学科 } 各40名程度/年
作業療法学科 }
臨床検査学科 }
診療放射線科学科 ... 25名程度/年



イメージ

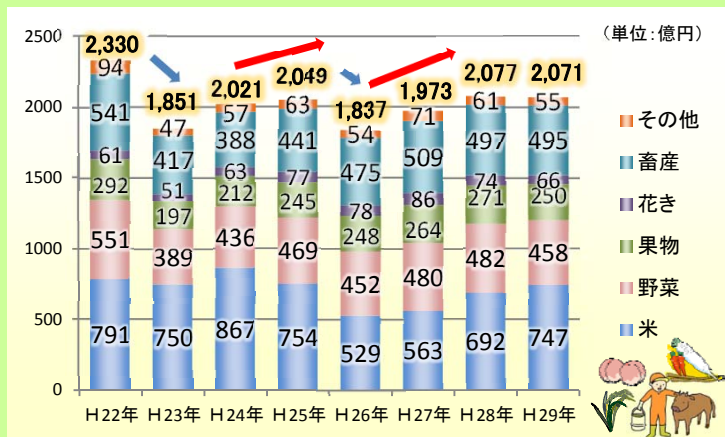
令和3年4月
学部開設予定

農林水産業については、震災前に比べ産出額が減少しています。

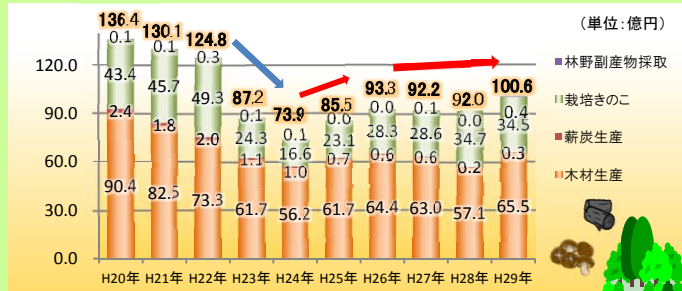
今後、被災者の生活再建のためにも、農林水産業の再生に向けた取組や、県産農林水産物の魅力と安全・安心に向けたPR活動を全力で進めていきます。

福島県の農業産出額等の推移

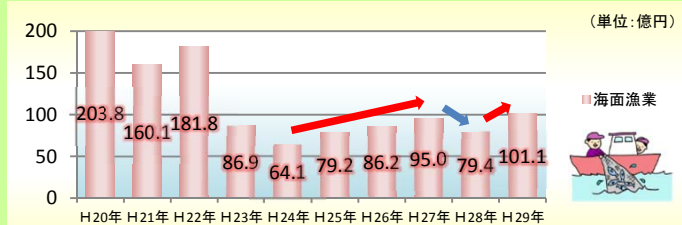
◆農業産出額



◆林業産出額



◆海面漁業産出額

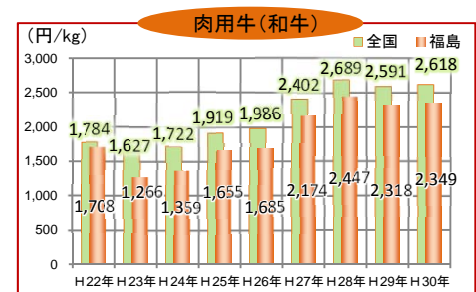
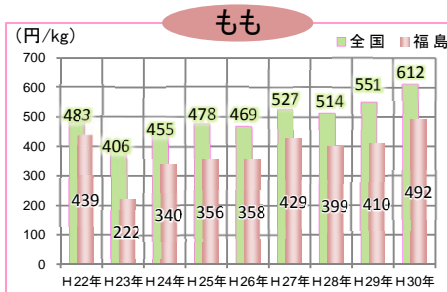
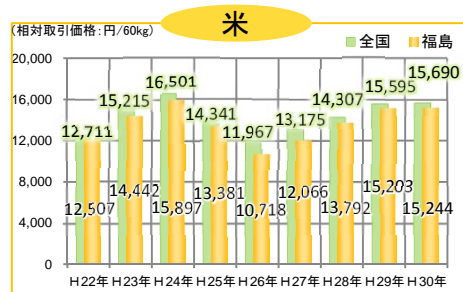


※ 項目毎の四捨五入により年計と年の各項目の総和は一致しない。
 ※ 米について、平成24年以降、作付面積、収穫量とも増加傾向にあるものの、平成26年・平成27年は全国的に米価が大きく下落し、本県の米の産出額も大幅に減少した。
 ※ 海面漁業について、平成28年はクロマグロ、メバチの産出額が非公表となり減額となった。

【出典】農林水産省生産農業所得統計、生産林業所得統計報告書、漁業産出額より作成

主な農産物価格の推移

◆福島県を代表する農産物【米: 収穫量全国第4位、もも: 収穫量全国第2位、肉用牛: 飼養頭数全国第10位(いずれも2010年)】の価格推移



※平成30年の価格は平成31年4月までの数値に基づく暫定値
 【出典】農林水産省「米の相対取引価格」に基づく県統計

【出典】東京都中央卸売市場ホームページ市場統計情報

県産農林水産物の販路・消費拡大への取り組み

ふくしまプライド。 フードアクション推進協議会

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、福島県産の農林水産物の消費拡大及び販路拡大を推進するため、「ふくしまプライド。フードアクション推進協議会」を開催しました。総合アドバイザーの有森裕子さん、西芳照シェフ、構成員の皆さんから、大会関係者や日本を訪れる観光客の方々に福島県のおいしい農林水産物を提供するため、また、2020年以降の販路拡大につなげるためどのように取り組んでいくべきか、御意見をいただきました。



会では西シェフ考案のアスリート食がふるまわれました

水産物販売コーナー設置

震災以降、本県水産物は試験操業の海域・漁法・対象種を拡大し、着実に復興・再生に向かっていますが、消費者の安全性に対する理解は十分とは言えず、消費量はなかなか回復しない状況にあります。そこで県では、県産水産物の安全性と美味しさを直接消費者へ伝えるため、首都圏の量販店に常設の販売コーナーを設置し、専門の販売員が対面販売により本県漁業の現状や水産物の安全性を消費者へ伝える取組を平成30年6月から実施しています。平成30年度は8店舗で展開しましたが、本年度は新たに2店舗を追加し、計10店舗において引き続き県産水産物の魅力を発信し、さらなる消費の拡大に努めています。



ふくしま売米隊(うりこめたい)

県産米の販売額の回復のため、平成30年10月に農林水産部長を本部長とする「ふくしま売米隊」を県職員で結成しました。平成30年度は、首都圏を中心に123店の米穀小売店を訪問し、県産米の品質の高さをPRしながら、取扱の拡大を依頼しました。また、11月には、「福島県産米の試食おすすめ会」として、新米と6次化商品「ごはんのおともシリーズ」の組み合わせをマスコミや米穀小売店に紹介し、その認知度を高めました。これらの活動により、県外での県産米取扱店舗数は、前年同期比約1.6倍の1,212店舗(平成31年3月現在)まで増加しました。今年度は隊員を5名増やして12名に増強し、年度末までに取扱店舗数1,500店を目指します。



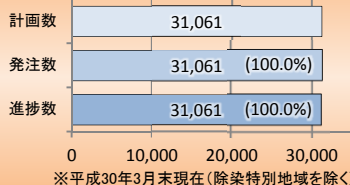
基準値を超える放射性物質を含む食品を流通させないため、農地の除染を行い、検査体制を強化し安全性を確認しています。特に主食である米については、県内全域で生産・出荷される全ての米を検査しています。

また、試験操業で水揚げされた水産物をより安全に流通させるため、漁協等が行う自主検査に対し検査技術の指導を行うとともに、生産者、流通業者等と効率的な検査体制の構築について協議しています。

農地の除染

◆除染の進捗と除染について【農地(水田+畑地+樹園地+牧草地:ha)】

【農地(水田+畑地+樹園地+牧草地:ha)】



県産農林水産物のモニタリング等状況

県産農林水産物は出荷前に検査を実施し、安全性を確認しています。基準値を超過した品目は、市町村単位で出荷が制限され、流通しません。

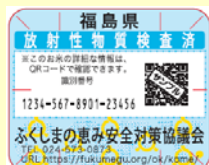
◆米の全量全袋検査の結果

【平成30年8月21日～令和元年5月31日】

玄米	検査点数	基準値超過数	超過数割合
【平成30年産】	約923万点	0点	0%



【玄米袋用】



県産の玄米袋には検査後に検査済みラベルを貼付しています。検査結果は、ホームページで確認できます。

【精米袋用】



検査済み県産米の小分け袋や精米袋に専用のラベルを貼付しています。

◆野菜・果物、畜産物等の検査結果

【平成31年4月1日～令和元年5月31日】

種別	検査件数	基準値超過数	超過数割合
野菜・果実	386件	0件	0%
畜産物	667件	0件	0%
栽培山菜・きのこ	188件	0件	0%
海産魚介類	859件	0件	0%
内水面養殖魚	14件	0件	0%
野生山菜・きのこ	416件	0件	0%
河川・湖沼の魚類	232件	2件	0.86%

(国のガイドラインに基づき福島県が実施している検査)

食品中の放射性セシウムの基準値【食品衛生法】(Bq/kg)

一般食品	100
牛乳	50
乳児用食品	50
飲料水	10

・モニタリング検査等の結果をHPで公表しています。「福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報」
<https://www.new-fukushima.jp/>
 ・米の全量全袋検査、産地の自主検査の結果をHPで公表しています。「ふくしまの恵み安全対策協議会」
<https://fukumegu.org/ok/contents/>

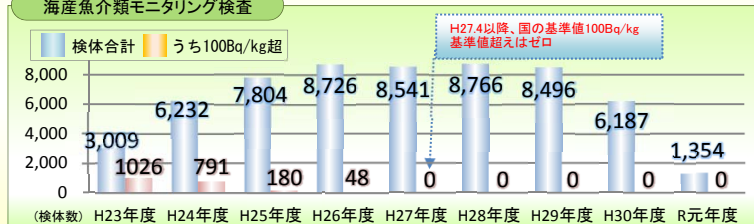
漁業における試験操業

福島県の沿岸漁業は、操業自粛を余儀なくされていますが、5万件を超える県のモニタリング検査で安全性が確認された魚介類を対象に試験操業を実施しています(平成31年3月14日現在:出荷制限5魚種を除く全ての魚介類が対象)。漁業協同組合は、試験操業の漁獲物に対して、国の基準よりも厳しい自主検査基準(50Bq/kg)を設けて放射性物質検査を行い、自主検査基準を超える魚介類が流通しない体制で試験操業を実施しています。

平成31年1月31日に試験操業で漁獲されたコモンカスベ(エイ類)から国の基準を超過する放射性セシウムを検出した際も、試験操業における検査・流通体制がしっかりと機能し、出荷前にコモンカスベの流通を停止しております。今後もモニタリング検査を継続し、福島県水産物の安全性を確認するとともに、漁業協同組合の自主検査体制を含めて、県産水産物の安全性を発信していきます。

海産魚介類モニタリング検査

【令和元年6月末現在】



漁協自主検査の様子



GAPの認証取得拡大中！！

本県の認証GAP取得数は、令和元年5月末現在で177件となりました。平成28年度末の10件に比べ約2年間で大幅に増加しています。

平成31年3月には、本県で初めて畜産品目(豚)で認証GAPが取得され、認証品目数は63品目に拡大しています。また6月には、認証取得に取り組む県内の農業高校10校全てで認証を取得し、高校の認証取得学校数では全国一となっています。

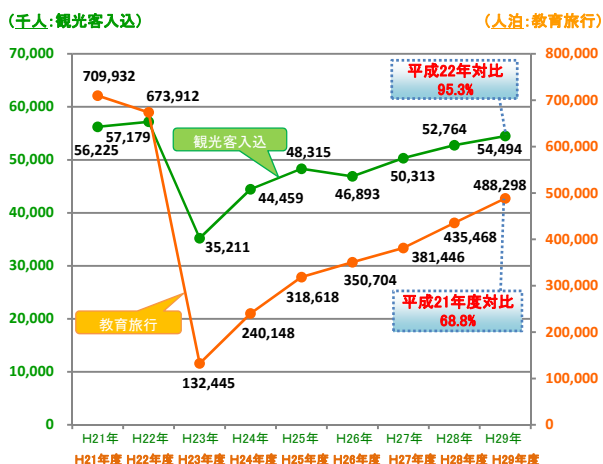
認証取得10校目となった相馬農業高校作物専攻班



復興五輪と位置づけられる東京オリンピック・パラリンピックに向けて、世界中から、多くの方々に福島県を訪れてもらい、復興に向かって着実に歩んでいる姿を見てもらうため、県民が丸となった、おもてなしや地域主体の受入体制の整備、観光素材の磨き上げなど、観光振興に取り組んでいきます。

観光客の推移

◆福島県観光客入込と教育旅行の状況

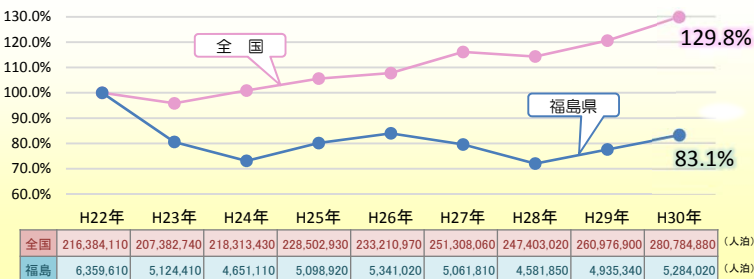


【出典】福島県観光交流課「福島県観光客入込状況」「福島県教育旅行入込調査報告書」

ふくしまの魅力の発信・
イベントで観光再生を促進

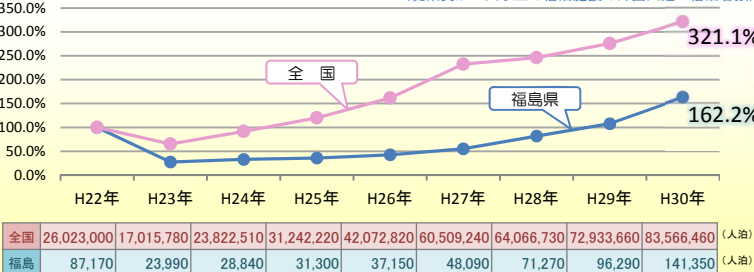
◆観光客の宿泊者数

【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査
(宿泊者のうち観光目的の宿泊者が全体の50%以上と回答した宿泊施設)



◆外国人延べ宿泊者数

【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査
(従業員が10人以上の宿泊施設の外国人延べ宿泊者数)



【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査

東京2020オリンピック 聖火リレーは福島県からスタート/ 本県開催のソフトボールで開幕



2020年3月26日にJヴィレッジ(楡葉町・広野町)を出発する東京2020オリンピック聖火リレーでは、28日までの3日間で25の市町村を通過するルート概要が発表され、県内59全ての市町村から、ゆかりのあるランナーが公募で選ばれます。

また、あづま球場で、ソフトボールが2020年7月22日・23日の2日間で6試合、野球が7月29日に1試合行われ、特にソフトボールの開幕戦は、オリンピック全競技のスタートを飾る試合となります。

「復興五輪」として開催される東京2020オリンピック・パラリンピックを通じ、東日本大震災以降、全国、海外の皆さんからいただいている御支援に対する感謝の思いと、復興に向けて前進している姿を発信していきます。



全国新酒鑑評会で史上初となる 金賞受賞数「7年連続日本一」達成！！

平成30酒造年度全国新酒鑑評会の審査結果が発表されました。全国から857銘柄が出品され、福島県の日本酒は、31銘柄が入賞、うち22銘柄が金賞に選ばれ、金賞受賞数で史上初の7年連続(通算9度目)の日本一に輝きました。



金賞受賞銘柄(順不同)

銘柄	製造所	市町村	三春駒	佐藤酒造	三春町	大吟醸きたのはな	喜多の華酒造場	喜多方市
金水島	金水島酒造店	福島市	東豊国	豊国酒造	古殿町	國権	國権酒造	南会津町
寿々乃井	寿々乃井酒造店	天栄村	奥の松	東日本酒造協業組合	二本松市	開當男山	渡部謙一	南会津町
廣戸川	松崎酒造	天栄村	会津中将	鶴乃江酒造	会津若松市	田島	会津酒造	南会津町
雪小町	渡辺酒造本店	郡山市	名倉山	名倉山酒造	会津若松市	福川	福川酒造店	猪苗代町
さかみずき	たに川酒造	郡山市	嘉永蔵大吟醸	末廣酒造嘉永蔵	会津若松市	榮四郎	栄川酒造 磐梯工場	磐梯町
あぶくま	玄葉本店	田村市	會津泉	宮泉酒造	会津若松市	萬代芳	白井酒造店	会津美里町
			会津吉の川	吉の川酒造店	喜多方市	學十郎	豊国酒造	会津坂下町



「コードF-9」
幸せを運ぶ
25のラッキー
好評開催中！

福島 コードF9
検索

謎を解きながら福島を探索する「コードF-9 幸せを運ぶ25のラッキー」を10/27(日)まで好評開催中。

9回目を迎える今回の「コードF」は、ふくしま応援ポケモン「ラッキー」とコラボして、福島県内25のエリアで謎を解きながらラッキーを探します。ラッキー発見すると抽選で795名に素敵な賞品が当たります。

福島空港 台湾定期チャーター便就航

平成31年4月から、台湾の遠東航空による定期チャーター便が運航されています。福島と台湾をそれぞれ毎週木曜日に出発し、日曜日に戻るという日程で週2往復運航されています。定期チャーター便の運航により、福島と台湾双方方向での交流拡大が期待されています。今後も、国際チャーター便の誘致に取り組んでいきます。



福島空港に到着した
台湾チャーター便

台湾人観光客の
歓迎せしめ



日本橋ふくしま館
来館者
200万人達成！

令和元年6月18日、日本橋ふくしま館「MIDETTE」は来館者200万人を達成いたしました。日本橋ふくしま館は、首都圏情報発信拠点として平成26年4月12日にオープンし、日本酒を始め、菓子、果物、工芸品など本県が発信する特産品の販売を行うとともに、本県の様々な魅力を発信してまいりました。

今後も多くのお客さまにお越しいただける魅力的な店舗づくりに努めるとともに、四季折々の多彩な観光情報や復興に向かう「ふくしまの今」を首都圏の皆様に向けて発信してまいります。

製造品出荷額等の推移をみると、全国、福島県ともに震災前を超過する水準まで回復しました。本県産業の持続的な発展に向けて、地域経済の核となる中小企業等の事業継続・再開などを積極的に支援するほか、県内への企業誘致等を通じて雇用の確保を図っていきます。

地域別製造品出荷額等(※)の推移

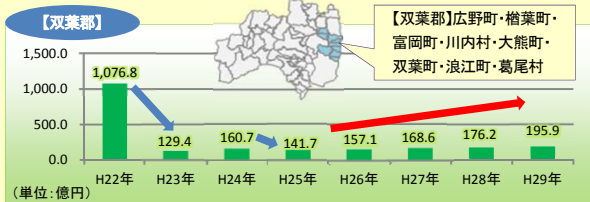
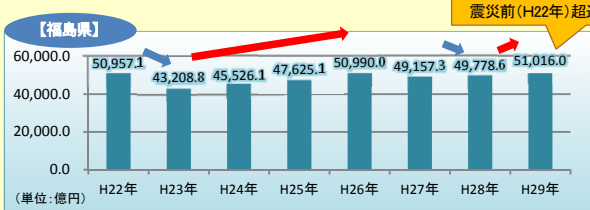
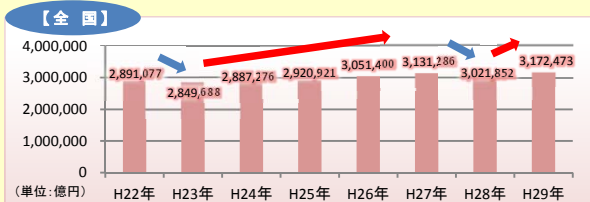
製造品出荷額等は、平成29年については、はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業などの業種で出荷額が増加したため、前年より全体額で2.5%増し、県全体で見ると震災前(平成22年)を超過する水準まで回復しました。

しかし、原発事故により避難を余儀なくされた双葉郡は、平成23年以降、震災前の2割弱程度にとどまっています。双葉郡をはじめとする避難地域および浜通りの復興をさらに進めていく必要があります。

※ 製造業(注)に属する事業所で従業員4人以上の事業所における1年間の製造品出荷額、加工賃収入額、その他の収入額の合計。休業中、操業準備中等の事業所は含まない。

(注) 統計法第2条第9項に規定する日本標準産業分類(平成25年10月改定)に掲げる大分類E-製造業に属する事業所

【出典】 経済産業省「平成30年工業統計速報」および県統計課「平成30年工業統計調査結果速報」「工業統計調査結果報告書(H22,H24,H25,H26,H29)」「経済センサス-活動調査(製造業)結果報告書(H24,H28)」より作成



工業団地の整備



「いわき四倉中核工業団地第2期区域」分譲中

平成30年3月、浜通り南部の復興推進の産業基盤として、いわき四倉中核工業団地第2期区域が完成し、同年12月に約4.0%を分譲しました。現在分譲中の面積は約13.1%となります。

いわき四倉中核工業団地は常磐自動車道いわき四倉ICから車で約6分の場所にあり、首都圏や仙台圏を始め、高速道路網により全国へのアクセスが可能です。

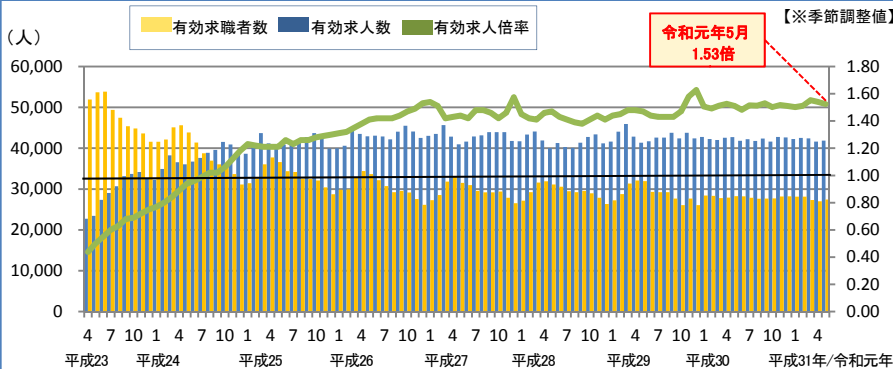
また、重要港湾小名浜港まで約40分の距離であり、海外輸出・輸入に対応できます。

引き続き福島インベーション・コースト構想の柱となる、ロボットや再生可能エネルギー関連産業等、浜通りを始めとする被災地、さらには福島県の復興をけん引する企業の誘致活動に取り組んでいきます。



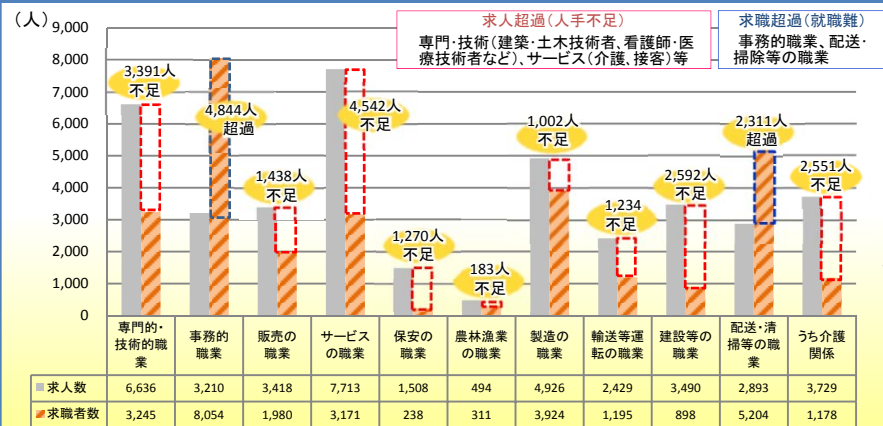
工業団地全景

有効求人倍率等の推移



【出典】 福島労働局職業安定部「最近の雇用失業情勢について」より作成

職業別雇用情勢等の状況【令和元年5月】



【出典】 福島労働局職業安定部「最近の雇用失業情勢について」より作成

※臨時・季節雇用の求人数を除いた原数値

中小企業等の復旧・復興雇用確保に向けた取組

◆施設・設備の復旧支援

【中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業】
平成23～平成30年度累計:419グループ、3,879事業者、1,184億円の支援
【中小企業等復旧・復興支援事業】
平成23～平成30年度累計:4,185件、91億円の支援
【事業再開等支援事業】
平成28～平成30年度累計:928件、86億円の支援

◆資金繰り支援

【ふくしま復興特別資金】
平成23～平成30年度累計:25,534件、4,379億円を融資
【特定地域中小企業特別資金】
平成23～平成30年度累計:933件、156億円を融資

◆雇用支援

【緊急雇用創出事業】
平成23～平成30年度累計:71,237人を雇用
【ふくしま産業復興雇用支援事業】
平成23～平成30年度累計:29,384人を雇用

有効求人倍率は高水準を維持していますが、その内訳をみると、事務的職業が就職難となっている一方、建築・土木技術者、医師・看護師などの専門的技術的職業や介護関係などにおいて人手不足が顕著となるなど、職業により偏りが生じています。

立地補助金による企業立地支援

◆ふくしま産業復興企業立地補助金

県内に工場等を新設又は増設する企業を支援し、生産規模の拡大と雇用の創出します。

【11次指定日現在】



◆津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金

【8次採択日現在】

津波や原子力災害により、甚大な被害があった地域の産業復興を加速するため、工場等を新設又は増設する企業を支援し、新たな雇用や経済波及効果等を創出します。

福島県を事業実施場所としている企業 第1～8次公募採択累計

204社

【平成30年10月19日現在】

2,625人の雇用創出見込み

◆自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金

【3次採択日現在】

被災者の「働く場」を確保し、今後の自立・帰還支援を加速するため、避難指示区域等を対象に工場等を新設又は増設する企業を支援し、雇用の創出や産業の集積を図ります。

福島県を事業実施場所としている企業 第1～3次公募採択累計

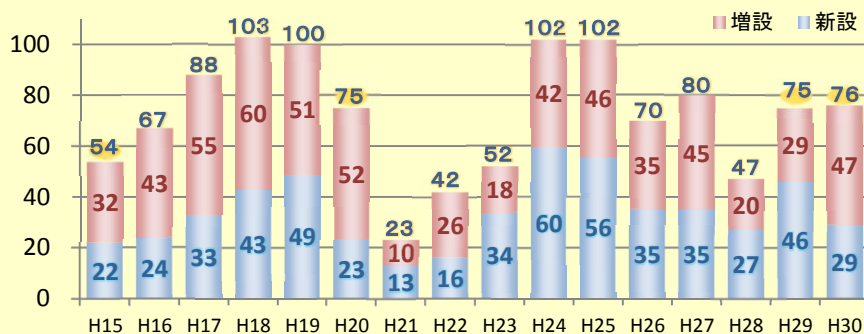
71社

【平成30年11月16日現在】

705人の雇用創出見込み

◆工場新増設の動き

福島県内の工場[敷地面積1,000㎡以上]新・増設状況
※県工業開発条例に基づく設置届出件数



【出典】福島県商工労働部調べ

課税の特例措置（優遇税制）による企業立地支援

- ◆県内産業の復興や企業立地の促進等を図るため、税制上の特例措置を講じています。
- ◆復興特区制度は、平成28年度税制改正により、令和3年3月31日までの5年間延長されました。
- ◆福島復興再生特別措置法に基づく避難者等雇用促進税制及び設備投資促進税制は平成31年度税制改正により、避難指示解除から7年後まで適用期限が延長になりました。

特例措置

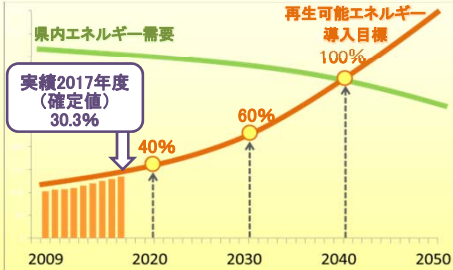


区域	県内全域			避難解除等区域
特例別	ふくしま産業復興投資促進特区による課税の特例		ふくしま観光復興促進特区による課税の特例	福島復興再生特別措置法による課税の特例
対象別	製造業等 県内59市町村の工業団地等【1,394ヶ所】	農林水産業等 県内53市町村の農業振興地域（一部除く）、漁港を中核として産業集積が図られる区域等	観光 県内52市町村の温泉地の観光施設等	避難解除区域 避難指示解除準備区域 居住制限区域 認定特定復興再生拠点区域
目的	産業復興・企業立地促進	農山漁村の再生	観光の再生	事業再開・継続の支援、新規立地の促進
内容	①新規立地新設企業の法人税を最大5年間課税繰り延べ ②機械・装置、建物等の投資に係る特別償却又は税額控除 ③被災雇用者に対する給与等支給額の10%を税額控除 ④開発研究用減価償却資産の即時償却及び税額控除 ⑤施設・設備の新増設による事業税、不動産取得税、固定資産税の課税免除等（※①、②、④の指定を受けた場合のみ）			①機械・装置、建物等の投資に係る特別償却又は税額控除 ②被災雇用者に対する給与等支給額の20%を税額控除 ③施設・設備の新増設による事業税、不動産取得税、固定資産税の課税免除等 ④将来の事業再開に向けて準備する事業者の最大3年間の課税繰り延べ
認定件数	H31.3.31 / 1,592件 雇用予定数: 47,053人	H31.3.31 / 214件 雇用予定数: 1,344人	H31.1.31 / 65件 雇用予定数: 1,102人	H31.3.31 / 既存事業者: 3,115件 H31.3.31 / 新規事業者: 120件

福島県の復興・再生には、単なる復旧にとどまらない先導的な取組が必要であることから、現在、各種研究開発・産業創出拠点の整備を進めており、復興の推進力としていきます。

再生可能エネルギー導入目標

2040年頃には、県内エネルギー需要の100%相当量を再生可能エネルギーで生み出すことを目標に再生可能エネルギーの導入拡大を進めるとともに、拠点整備等を通じて関連産業の集積・育成を図ります。



【参考】県内電力消費との比較
県内再生可能エネルギー導入実績 / 県内電力消費(需要)量
2017年度 約70%

ドイツNRW州との連携強化

本県における再生可能エネルギー関連産業分野及び医療関連産業分野の推進の一環として、海外との連携を進めています。

特に、ドイツ・フルトライン=ヴェストファーレン(NRW)州とは、平成26年に両分野で覚書を締結し、ビジネス交流を進めてきたところですが、再エネ関連産業分野では、平成29年1月に、医療関連産業分野では、同年8月に、覚書を更新し、両地域における企業の支援体制を強化することについて合意しました。

平成29年1月の知事訪独では、NRW州首相を始めとした州政府の要人との会談を通して、本県と同州が今後、連携を更に強め、交流を一層深めていくことについて、相互に確認いたしました。

平成29年11月には両地域の再エネ支援組織間で連携覚書を締結し、支援体制を強化しております。今後も、同州との強固なネットワークをいかして、ドイツを始めとするヨーロッパ、ひいては世界への販路拡大に向けた県内企業の挑戦を全力で支援していきます。



福島県内の再生可能エネルギーの拠点・取組

産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究所

国立研究開発法人産業技術総合研究所が、再生可能エネルギーの研究開発拠点を整備、平成26年4月1日に開所。スマートシステム研究棟が平成28年4月1日に運用開始。



郡山市

技術開発や人材育成を推進

提供: (国)産業技術総合研究所

土湯温泉16号源泉
バイナリー発電所



福島市

阿武隈・沿岸部共用送電線整備事業

阿武隈地域・沿岸部では、風力発電等の再生可能エネルギー導入ポテンシャルが高いにもかかわらず、近隣の既存送電網に空き容量が不十分で導入が進みにくい状況であったため、福島新エネ社会構想に基づく国予算措置を財源として、阿武隈山地及び浜通り沿岸部において、再生可能エネルギー発電施設約650メガワットの導入支援を行うとともに、共用送電線約75キロメートルを整備予定。

令和元年度 運用開始予定 650キロワット

グリーン発電
会津木質バイオマス発電所



会津若松市

稼働中

提供: (株)グリーン発電会津

郡山布引高原風力発電所



郡山市

稼働中

提供: J-POWER/電源開発(株)

大熊町ふるさと再興メガソーラー



大熊町

稼働中

提供: 福島洋上風力コンソーシアム

浮体式洋上風力発電実証研究事業

浮体式洋上風力発電システムの安全性、信頼性、経済性を検証。研究開発等の拠点を形成し、風力発電関連産業の集積を目指す。

◇運転開始時期◇

第一期: 2メガワット 風車H25.11.11

第二期: 7メガワット 風車H27.12.26

5メガワット 風車H29.2.1



提供: 福島洋上風力コンソーシアム

再生可能エネルギー由来水素プロジェクト

浪江町(棚塩地区)において、再生可能エネルギーを用いた大規模水素製造、次世代の水素輸送・貯蔵技術の実証に取り組む。令和2年運転開始予定、福島県産水素を東京五輪期間中に活用予定。



浪江町

平成32年 運用開始予定

スマートコミュニティ構想の推進

【新地町】相馬港の新LNG基地からの天然ガスパイプラインを活用。ガスコジェネにより、新地町周辺に電熱供給を行う。

【相馬市】工業団地内に太陽光、蓄電池及び自営線等を設置。余剰電力による水素製造や公共施設への小売も検討。

【浪江町】町中心部の交流拠点(道の駅)に設置するCEMSを核にEVやエネファームによる防災能力向上を図る。

【楢葉町】再開発エリアの公共施設、復興公営住宅等に太陽光や蓄電池を分散設置し、調整力として利用を検討。

【葛尾村】町中心部にメガソーラーと大容量蓄電池を導入し、系統負荷を抑制しつつ町内電力の再エネ比率向上を図る。



A 新地町 B 相馬市 C 浪江町
D 葛尾村 E 楢葉町

産業再生と集積の促進



MEDICAL FAIR ASIA 2018



H30.8.29～31 シンガポール

アジア最大級の 展示会に出展

平成30年8月29日～31日に、シンガポールにて、世界70カ国以上から約2万人の医療従事者、バイヤー、メーカーらが来場する、アジア最大級の医療機器製品・関連技術展示会が開催されました。

本県は、昨年のMEDICAL FAIR THAILAND 2017に引き続き福島県ブースを出展し、成長著しいアジア市場への販路拡大に向けた県内企業への支援を行っています。

本県ブースには県内企業9社が出展し、医療福祉機器関連の技術や製品をPRしました。

「E-world energy & water 2019」

「E-world energy & water 2019」 への福島県ブース出展

平成31年2月5日(火)から7日(木)まで、ドイツ・ノルトライン＝ヴェストファーレン(NRW)州エッセン市にて開催されたヨーロッパ最大級のエネルギー関連見本市「E-world energy & water 2019」(イーワールド エナジー アンド ウォーター)に福島県ブースを出展しました。

6回目となる今回の出展では、本県企業3社と産総研福島再生可能エネルギー研究所が出展し、出展者による取組紹介を行うとともに、活発な商談や情報交換が行われました。



H31.2.5～7
ドイツ・NRW州エッセン市/メッセ・エッセン

「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2018」の開催

ロボットと航空宇宙に関連する製品・技術が福島に集結する「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2018」を開催しました。

技術交流や商談の場として136の企業・団体が出展したほか、将来のものづくりを担っていく若い世代も楽しく参加することができる体験や展示等を行い、約9,600名に御来場いただきました。



H30.11.22～23 郡山市・ビッグパレットふくしま

福島県内の研究・開発拠点



ふくしま国際医療科学センター

【医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター】



福島市

H28.9.12 開所

県立医科大学敷地内に医療界と産業界の橋渡し役として、がんを中心とした新規治療薬・診断薬・検査試薬などの創薬支援拠点を整備。

会津大学復興支援センター(先端ICTラボ)

会津若松市

H27/10/1 開所



提供: 会津大学

ICTを活用した地域産業振興を担う企業の集積や人材育成に取り組むとともに、先端ICT研究を推進し、新たなICT産業を創出するための研究開発拠点を整備し、平成27年10月にオープン。

ふくしま医療機器開発支援センター

郡山市

H28.11.7 開所



医療機器の開発から事業化までを一体的に支援するため、大型動物を活用した安全性評価や医療従事者の機器操作トレーニング等を実施する拠点を整備。

水産資源研究所

相馬市



H30.6 開所

ヒラメ・アワビなど水産種苗を生産・供給し、栽培漁業を推進するとともに、底魚資源の調査研究に取り組み、資源管理と水揚げ高の拡大を目指す「ふくしま型漁業」の実現の一翼を担う拠点として整備。

浜地域農業再生研究センター

南相馬市

H28.3.25 開所



避難地域等の営農再開、農業再生に向けた調査研究のための拠点を整備。

水産海洋研究センター

いわき市

R元.7.1 開所



原子力災害に起因する新たな研究課題に対応するため、水産業再生に向けた試験研究の中核機関として整備。

福島イノベーション・コースト構想

福島イノベーション・コースト構想とは

震災、原発事故によって失われた浜通り地域等の産業・雇用を回復するため、廃炉やロボット技術に関連する研究開発、エネルギー関連産業の集積、先端技術を活用した農林水産業の再生、未来を担う人材の育成強化などを通じて新たな産業・雇用を創出し、住民が安心して帰還し、働けるよう、浜通り地域等の再生に取り組み、さらには県全体の復興・創生につなげていきます。

本構想は、福島復興再生特別措置法の改正(平成29.5.19公布・施行)により法律に位置付けられ、国家プロジェクトとして、より一層推進することとされました。

重点的な取組 5つの方向性

1 拠点の整備及び研究開発の推進

福島ロボットテストフィールド

陸・海・空のロボット・ドローンの研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行える、世界に類を見ない一大研究開発拠点。



南相馬市・浪江町

【全景】

平成30年度から
順次開所



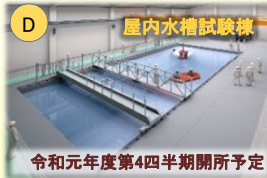
A 緩衝ネット付飛行場

令和元年度第3四半期開所予定



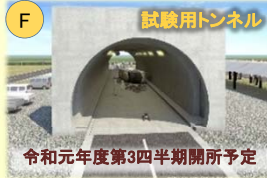
C 研究棟

令和元年度第2四半期開所予定



D 屋内水槽試験棟

令和元年度第4四半期開所予定



F 試験用トンネル

令和元年度第3四半期開所予定

福島ロボットテストフィールド一部開所

ドローン用の滑走路として、飛行試験、操縦訓練に使用する施設が4月26日に開所しました。



B 滑走路

H31.4.26

南相馬滑走路では飛行時の気象条件によって南北方向に離発着の方向を選択することができます。



E 試験用プラント

H31.2.26

平時・災害時のプラントを再現し、点検、情報収集、機器操作に関する試験や操縦訓練を行う施設です。

廃炉研究の拠点施設

楢葉町
楢葉遠隔技術開発センター
(モックアップセンター)

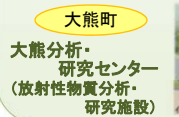


H28.4本格運用開始



富岡町

廃炉国際共同研究センター



大熊町

大熊分析・研究センター
(放射性物質分析・研究施設)

H30.3 一部運用開始

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

東日本大震災及び原子力災害の実態と復興への取組を正しく伝え、教訓として国を越え、世代を超えて継承・共有していきます。

(イメージ)

双葉町



R2年度開所予定

2 産業集積の促進及び未来を担う教育・人材育成

ビジネス交流会

地元企業と各分野で活躍する企業とのビジネス機会の創出を目指す、「ふくしまみらいビジネス交流会」を開催します。



交流会の様子

企業立地セミナー

イノベ構想に関する国・県の取組や新たな産業用地、全国トップクラスの優遇制度など、今後大きく向上する企業立地環境等を紹介する「企業立地セミナー」を開催します。



セミナーの様子

学生の施設・企業見学ツアー

浜通り地域等の高校生を対象に、地元企業等の取組やイノベ構想に関わる研究機関等の取組を見学するツアーを開催します。



企業訪問の様子

復興知の集積

浜通り地域等では、震災後、県内外の様々な大学が活動しています。大学等の地域連携を推進し、知の集積に向けた教育研究活動の活性化を図ります。



大阪大学×飯館村

3 生活環境の整備促進

拠点従事者やその家族、来訪者の利便性を確保するため、公共交通や医療・介護提供体制の構築を推進します。

ふたば医療センター 附属病院



新規路線バスの運行



4 来訪者の増大による地域への交流人口の拡大

イベント等への出展



イノベ構想に関連したセミナーの開催やイベントへのブース出展等を通じて、交流人口拡大に向けた地域住民の意識の醸成を図ります。

企業等の視察受入



拠点施設の持つ機能を最大限に生かしながら、地域の観光資源とも一体となって、交流人口の拡大を図る取組を推進します。

5 多様な主体相互間の連携の強化

イノベ機構と東邦銀行の連携

(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構と(株)東邦銀行は、イノベ構想の更なる推進に向けて連携協定を締結しました。



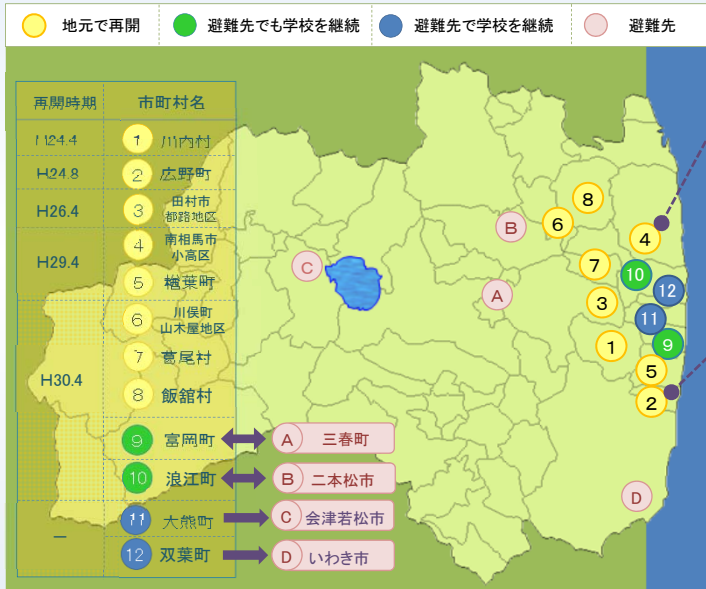
締結式
R元.5.24

震災・原発事故を乗り越えて、安全安心な教育環境づくり、創造的復興教育を行います。

高校の開設と小中学校の再開状況

市町村別の小中学校再開状況

【令和元年6月時点】



小高産業技術高等学校

平成29年4月の開校時から、文部科学省の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」の指定を受けるとともに、工業と商業の学科連携により、新たな産業に対応できる高度な知識と技術を身に付けた人材の育成に取り組んできました。引き続き、地域や関係機関と連携した取組を推進し、福島イノベーション・コースト構想に寄与できる人材の育成に一層取り組んでいます。



自動走行車の製作

ふたば未来学園中学校・高等学校

平成27年4月、高校が先行して開校しました。地域や社会の「変革者」の育成を目標とし、ふるさと創造学や未来創造探究、トップアスリートの育成等に取り組んでいます。また、文部科学省から県内で初めて、「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定され、原子力災害からの復興を果たすグローバル・リーダーを育成しています。平成31年4月には中学校が開校し、6年間の中高一貫教育が始まりました。



国連本部における研修

小中学校が地元で再開

原発事故の影響により、避難先での運営を余儀なくされた小中学校のうち、平成29年度までに南相馬市小高区、楡葉町をはじめとする5つの市町村が、平成30年度には更に川俣町山木屋地区、富岡町、浪江町、葛尾村、飯館村の5つの町村が地元での学校再開を果たしました。引き続き、県と市町村、国とが一体となり、魅力ある学校づくりを進めていきます。



再開式の様子(葛尾村)

福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成



高等学校

本構想を牽引する高い志を持ったトップリーダーや、ロボット・再生可能エネルギー・農林水産等の各専門分野において即戦力となる人材を育成します。「小高産業技術高等学校」、「ふたば未来学園高等学校」の2校は先行して取り組んでいます。

会津・中通り

専門高校高度人材育成

構想に関連する先端技術企業や研究機関から外部講師を招聘し、先進的な技術や技能を身に付けた人材を育成します。

ロボット人材育成

企業や研究機関から講師を招聘し、ロボット製作等に関連する高度な各種先端技術の能力を身に付けた人材を育成します。



車いすシミュレーター
(郡山北工業高校)

浜通り地域等

トップリーダー育成

地元への使命感や高い志を持ち、構想に寄与するトップリーダーの育成を目指し、将来、地元で起業する人材や、廃炉・エネルギー等の研究者となり、地元で還元できる人材等を育成する教育プログラムを実践します。

農水産業人材育成

6次産業化やドローン、IoTセンサー等先端技術の活用、販売力や経営力の向上など、地域農業の将来を担う人材及び現代社会に必要な水産業に柔軟な考えを持つ人材を育成する教育プログラムを実践します。

工業人材育成

企業や高等教育機関、研究機関と連携した講義や実習、課題研究等を通じて、福島イノベーション・コースト構想の実現に寄与する専門的な人材を育成する教育プログラムを実践します。



楡葉遠隔技術開発センター視察
(平工業高校)



小学校・中学校

構想を担う人材の裾野を広げるため、義務教育段階から、ロボット、ドローン、再生可能エネルギー、プログラミングなどの体験会、講演会、コンテスト、先端技術体験等の理数教育を行います。また、世界に発信する力を身に付けるキャリア教育を行います。



先端技術体験

元氣な福島を発信

「高校生社会貢献活動コンテスト」等の開催

県内5地区で開催する「高校生地域貢献サミット」や、年1回の「高校生社会貢献活動コンテスト」などを通して、地域の課題を題材とした高校生の課題解決型学習を推進しています。



高校生社会貢献活動コンテスト

チャレンジ！子どもがふみだす体験応援事業 (「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業)

ふくしまの元気を届ける！

仮設住宅などを継続的に訪問し、避難者と交流して子どもたちが元気を発信し、お年寄りなどを元気にする活動等を支援します。

ふくしまの今を発信！

被災地内外の地域と交流を行い、地域の復興を考え被災地の現状等について伝え、震災の風化を防止する活動等を支援します。

ふくしまを創る起業体験！

地域の将来を見据えた地域活性化の取組を実践することで、ふくしまを発信する活動等を支援します。

復興計画(第3次)では、復旧・復興のために特に重要な取組を10の重点プロジェクトとして位置づけ、重点的に事業を推進しています。総合計画の「人口減少・高齢化対策プロジェクト」とあわせ、本県の復興と地方創生に取り組んでいきます。

令和元年度当初予算 1兆4,603億円 うち、復興・創生分 6,001億円

避難地域の復興・再生

避難地域等 復興加速化プロジェクト

514
億円

- (1) 安心して暮らせるまちの復興・再生
 - ① 復興拠点を核としたまちづくり
 - ② 広域インフラの充実・広域連携の推進
 - ③ 浜通り地方の医療等の提供体制の再構築
 - ④ 産業・生業の再生
- (2) 世界のモデルとなる復興・再生
 - ① 福島イノベーション・コースト構想の推進
 - ② 未来を担う、地域を担う人づくり
 - ③ 地域の再生を通じた交流の促進

まちをつくり、ひとつつながる

風評・風化対策 プロジェクト

194
億円

- (1) 農林水産物をはじめとした県産品の販路回復・開拓
- (2) 観光誘客の促進・教育旅行の回復
- (3) 国内外への正確な情報発信
- (4) ふくしまをつなぐ、きずなづくり
- (5) 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした情報発信・交流促進

復興まちづくり・交流ネットワーク 基盤強化プロジェクト

1,760
億円

- (1) 津波被災地等の復興まちづくり
- (2) 復興を支える交通基盤の整備
- (3) 防災・災害対策の推進

安心して住み、暮らす

生活再建支援プロジェクト

319
億円

- (1) 住まいや安全・安心の確保
- (2) 帰還に向けた取組・支援
- (3) 避難者支援体制の充実

環境回復プロジェクト

1,181
億円

- (1) 除染の推進
- (2) 食品の安全確保
- (3) 廃棄物等の処理
- (4) 環境創造センター等における研究の推進
- (5) 廃炉に向けた安全監視

心身の健康を守るプロジェクト

149
億円

- (1) 県民の健康の保持・増進
- (2) 地域医療等の再構築
- (3) 最先端医療の提供
- (4) 被災者等の心のケア

子ども・若者育成 プロジェクト

183
億円

- (1) 日本一安心して子どもを生み、育てやすい環境づくり
- (2) 復興を担う心豊かなたくましい人づくり
- (3) 産業復興を担う人づくり

ふるさどで働く

農林水産業再生プロジェクト

731
億円

- (1) 安全・安心を提供する取組
- (2) 農業の再生
- (3) 森林林業の再生
- (4) 水産業の再生

中小企業等復興プロジェクト

879
億円

- (1) 県内中小企業等の振興
- (2) 企業誘致の促進

新産業創造プロジェクト

382
億円

- (1) 再生可能エネルギーの推進
- (2) 医療関連産業の集積
- (3) ロボット関連産業の集積

人口減少・高齢化対策 プロジェクト

606
億円

- (1) しごとづくり・しごとを支える人づくり
- (2) 新しい人の流れづくり
- (3) 結婚・出産・子育て支援
- (4) 暮らしやすく活力あるまちづくり
- (5) 高齢者が元気で豊かに暮らせるまちづくり

【再掲事業含む】

トピック

H31.4.20
全面再開

Jヴィレッジがグランドオープン！！

福島県「復興のシンボル」Jヴィレッジが平成31年4月20日に全面再開しました。グランドオープンイベントには過去最大となる約2万人の方が県内外から来場し、スペシャルライブやサッカー体験、福島の食とお酒などをとお楽しみいただくとともに、その様子は広く報じられました。

引き続き、スポーツの振興や交流人口の拡大などに取り組むとともに、Jヴィレッジの幅広い活用を進めることで、力強く復興する本県の姿を国内外に向けて発信していきます。

平成31年4月
グランドオープン



JR常磐線『Jヴィレッジ駅』開業

Jヴィレッジグランドオープンに合わせて、JR常磐線に新駅『Jヴィレッジ駅』が開業しました。Jヴィレッジ等でのイベント開催時に列車が停車する臨時駅として、来場者の利便性向上につながる事が期待されます。

ホームには、優勝カップのレプリカを飾れる台座が設置されています。



H31.4.20

『道の駅ならば』再オープン

震災以降休館していた、楡葉町の「道の駅ならば～Jヴィレッジ湯遊ならば～」が4月25日に再オープンしました。

温泉施設やレストラン、地域のおみやげ品を販売する売店が営業を再開し、Jヴィレッジ来訪者の利用も見込まれます。

ふくしまの魅力を伝える6秒動画「もっと 知って ふくしま！」

平成31年2月18日、「もっと 知って ふくしま！」を公開しました。スマートフォンや街頭ビジョンなど、普段の生活の中で見て、知っていただくことで、「ふくしまの魅力」をもっと身近に感じてほしいという思いを込めて6秒の動画を25本制作しました。

県公式YouTubeチャンネルで公開しているほか、福島に心を寄せる企業・自治体の御協力を得て、全国の商業施設・庁舎等で放映されています。各施設等での上映に御協力いただける企業・団体等の皆さまにはDVDを無償で提供しています。

もっと 知って
ふくしま!



もっと知ってふくしま

検索

福島県公式イメージポスター

県クリエイティブディレクター 箭内道彦氏による監修のもと、福島県の魅力と今を伝えるイメージポスターを作成しました。

福島県公式ポスター

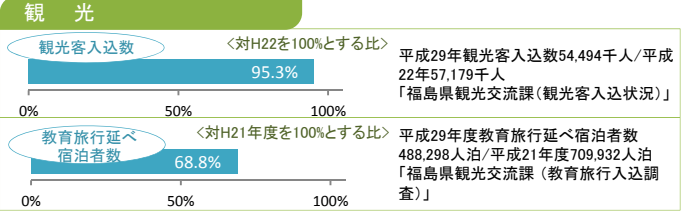
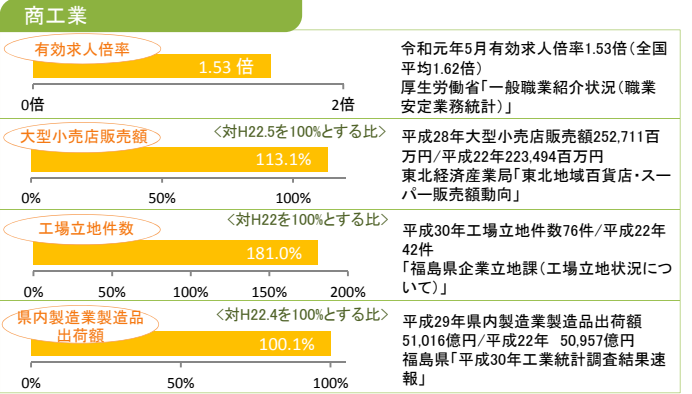
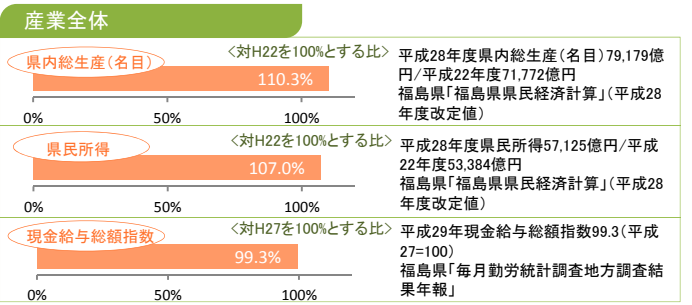
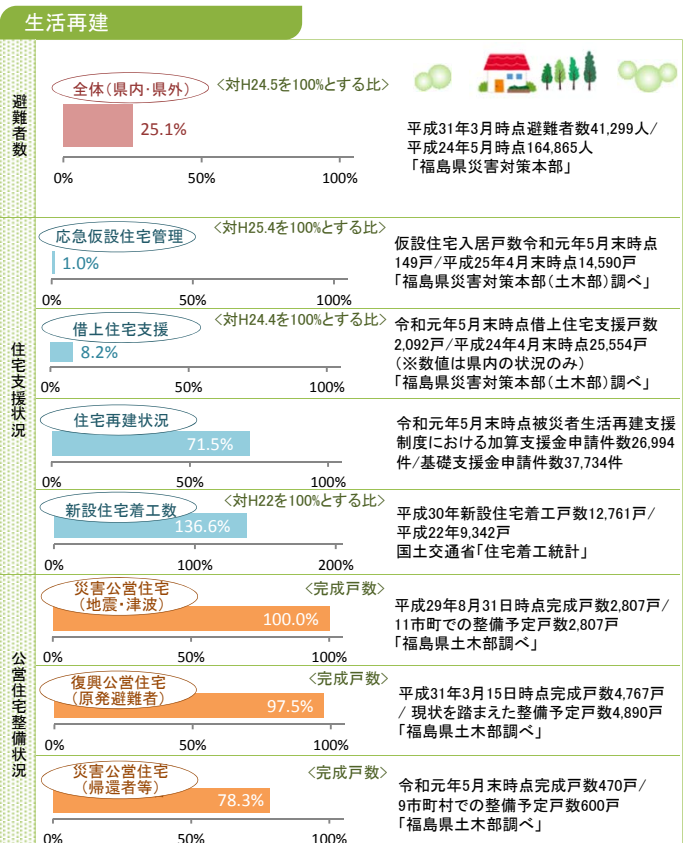
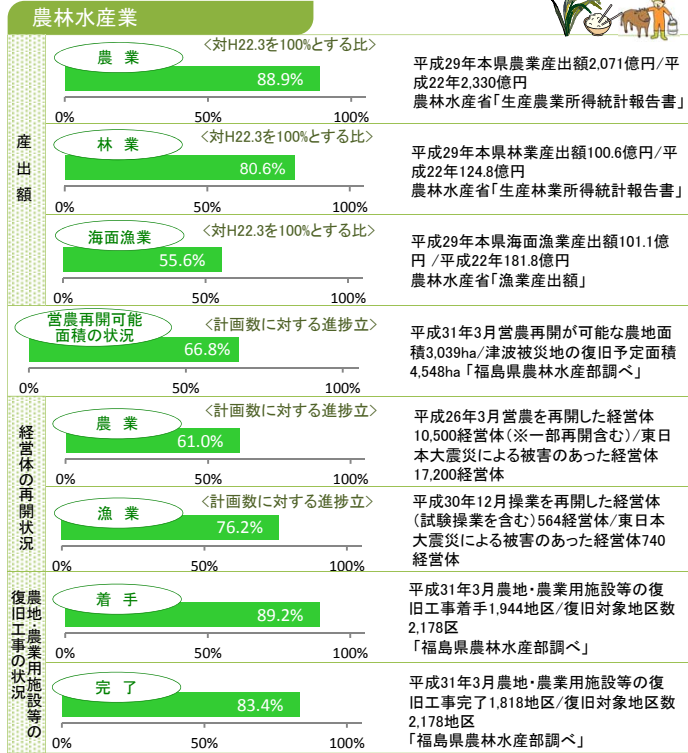
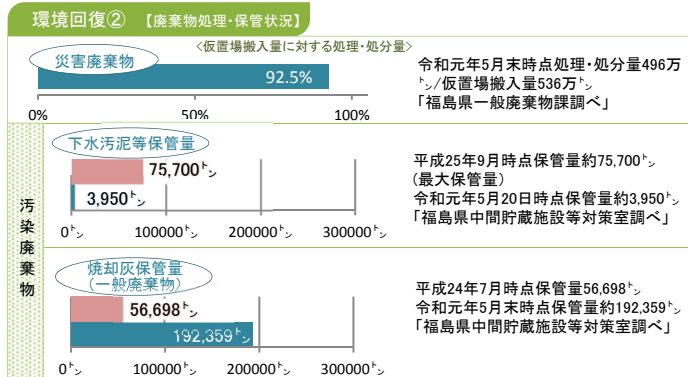
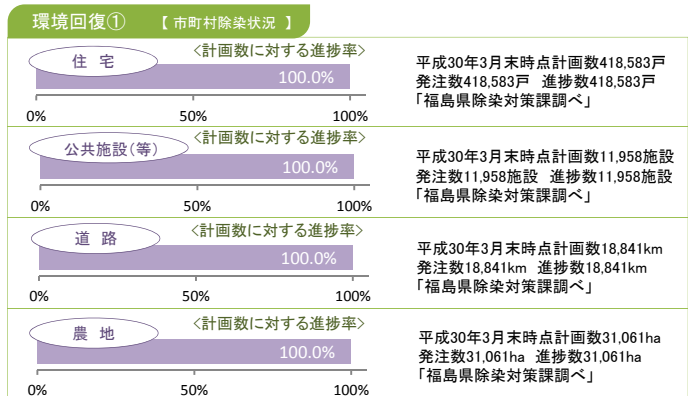
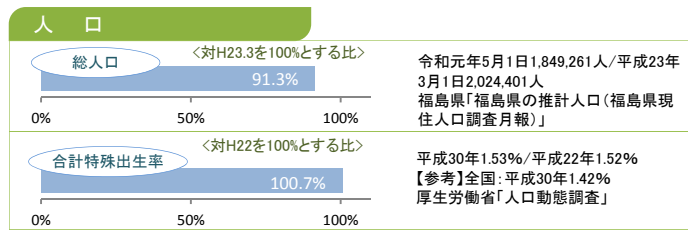


検索

ポスターの掲出に
ぜひ御協力をお願いたします!



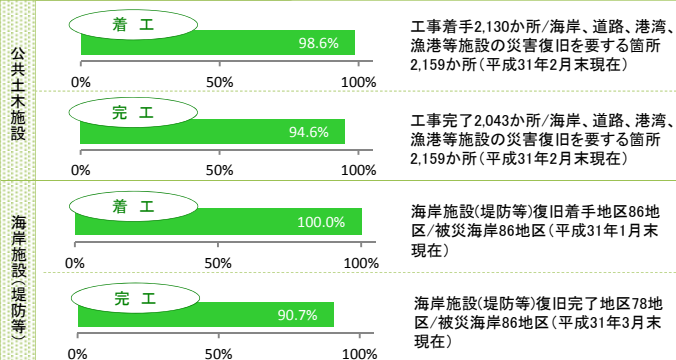
【参考】データで見る福島の復興状況 ①



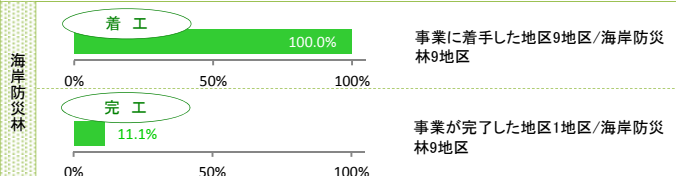


【参考】データで見る福島の復興状況 ②

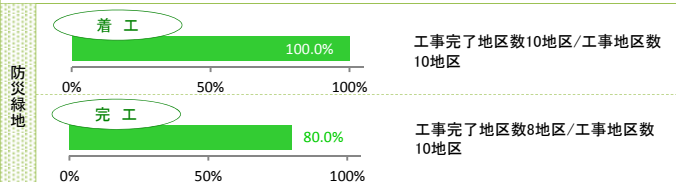
公共土木施設・海岸等



避難指示解除準備区域及び居住制限区域は、既に災害査定が終了している。帰還困難区域では、国が行う除染などと調整を図りながら進めていく予定。(査定継続実施中)
※海岸施設(堤防等)は平成32年度完了見込。

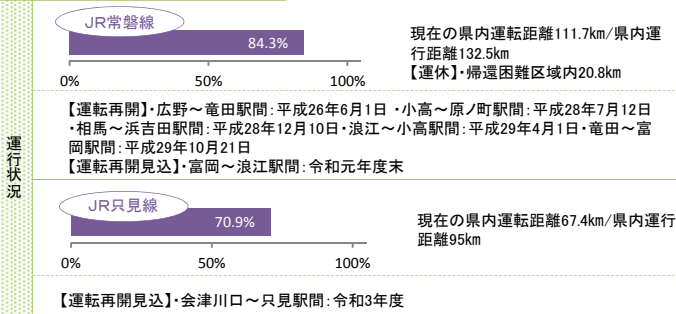


海岸防災林9地区(相馬地区、鹿島地区、原町地区、小高地区、浪江地区、双葉地区、富岡地区、楡葉地区、新舞子地区)(平成30年3月末現在)うち、新舞子地区が完了。
※平成32年度完了見込。(一部地域を除く。)

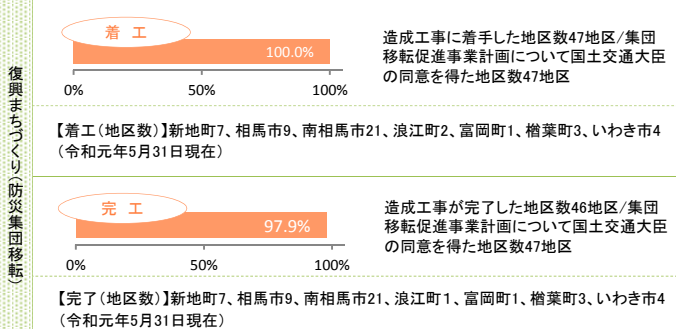


防災緑地10地区 新地町(埴浜地区)、相馬市(原釜尾浜地区)、広野町(浅見川地区)、いわき市(久之浜地区、四倉地区、沼ノ内地区、薄磯地区、豊間地区、永崎地区、岩間地区)うち、埴浜地区、浅見川地区、四倉地区、沼ノ内地区、薄磯地区、豊間地区、永崎地区、岩間地区の8地区が完了。【令和元年7月15日現在】

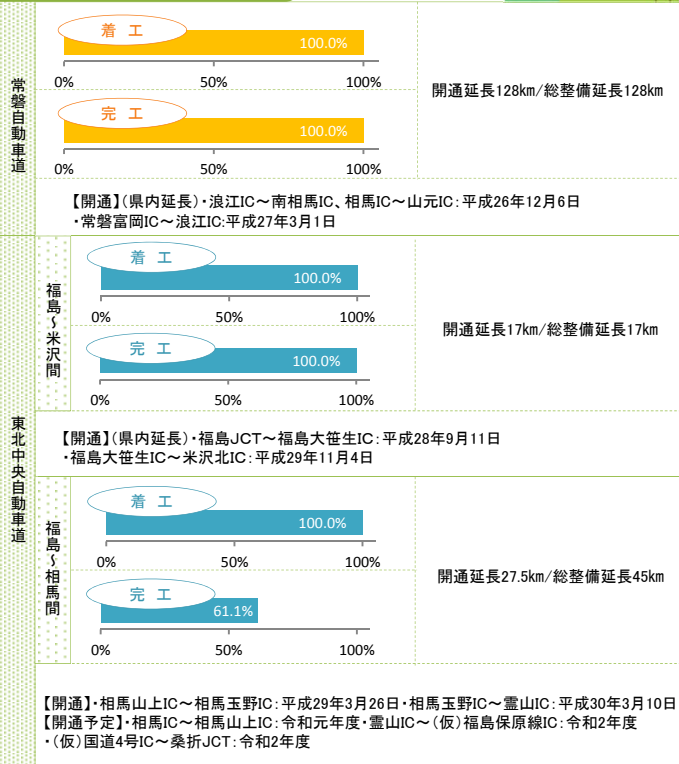
鉄道



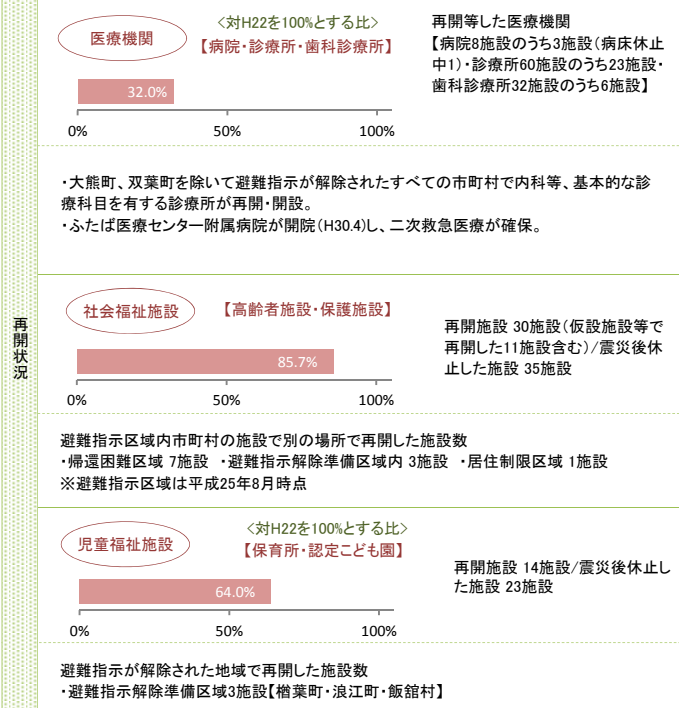
集団移転



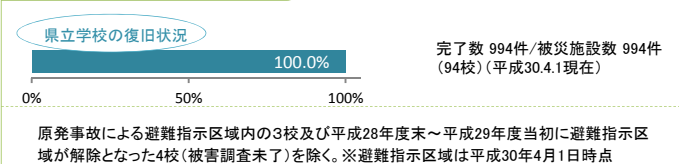
道路



医療・福祉施設



学校





ウェブのご案内

<p>本冊子</p> <p>ふくしま復興のあゆみ 検索</p>	<p>震災・原子力災害、復興情報</p> <p>ふくしま復興ステーション 検索</p>	<p>「福島県復興計画(第3次)」</p> <p>復興の現状を分析して、今後の復興の取組を分かりやすくまとめました。</p> <p>福島県復興計画 検索</p>	<p>その他の統計はこちらから</p> <p>ふくしま統計情報 検索</p>
--	--	---	---



福島県復興シンボルキャラクター「ふくしまからはじめよう。キビタン」

お問い合わせ

福島県 企画調整部 復興・総合計画課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号 Tel 024-521-7109

E-mail sougoukeikaku@pref.fukushima.lg.jp